第２回熊谷市荒川公園周辺再整備基本計画策定協議会

日時：令和８年９月２４日（木）午後１時００分～
場所：熊谷市役所議会棟２階　第１委員会室

次　第

１　開　会

２　議　事

⑴　荒川公園周辺再整備　御意見に対する市の対応について

⑵　荒川公園周辺再整備基本計画案について

３　その他

４　閉　会

資料１

荒川公園周辺再整備
御意見に対する対応案

　これまで開催した４回のワークショップ、説明会、第１回協議会等でいただいた御意見に対する市の考えを記載しています。

◆荒川公園周辺再整備　御意見に対する対応案

No.	分類	御意見	対応案
1	事業について	熊谷駅南口から荒川までを一体的に整備し、荒川公園が魅力的で親しみやすい公園になることを期待する。	公園と体育館を一体のものとして捉え、両者をつなぐパークセンターを新たに設けることで、それぞれの機能と公園全体の魅力を高める基本的な考え方を示しています。 **※公園と体育館をつなぐ新たな機能としてパークセンターを位置付けます。パークセンターについては、この後の基本計画案において詳細を説明します。**
2	事業について	図書館や文化会館を含む複合的な計画とし、地域価値を高めるべき。	熊谷駅南口エリアの活性化や荒川かわまちづくりと連携し、南口エリア全体の価値を高めるコンセプトと再整備目標を設定しています。 また、文化センターは今回の再整備対象ではないものの、文化センター利用者が立ち寄れる空間とします。
3	事業について	「新スポーツ・文化・健康拠点」として整備するのであれば、スポーツだけでなく文化機能についても考えてほしい。	市民の日常的なスポーツ利用や大会利用に加え、教室事業、屋内遊び場、イベント等の多様な利用を可能とする体育館機能の考え方を示しており、スポーツに限らない文化・交流活動にも活用できる施設を目指しています。 ※公園と体育館をつなぐ新たな機能としてパークセンターを位置付けます。パークセンターについては、この後の基本計画案において詳細を説明します。
4	事業について	公園活性化やスポーツ誘致は、全庁的に取り組むべき。また大規模大会を誘致・開催する場合の庁内担当部署を明確にしてほしい。	庁内の体制について今後調整するとともに、外部関係団体との連携を推進します。
5	事業について	イベントやスポーツ大会の開催によって交流人口を増やし、将来の人口減少や社会情勢の変化にも対応できる柔軟な施設として整備することで、地域経済の活性化につなげてほしい。	熊谷駅南口エリアの新たな顔として多様な活動や交流を育むことを再整備の目標に位置付けるとともに、全国規模の大会や各種イベントに対応し、大会だけでなく市民利用も可能とする考え方としています。今後の社会情勢の変化にも対応できるよう、将来の更新や用途変化に配慮した柔軟性の確保を再整備要件として整理しています。
6	事業について	カフェやマルシェ、商業機能などを導入し、スポーツ以外の目的でも日常的に人が訪れたくなる場にしてほしい。	キッチンカー等が出店できる広場や、遊び・休憩等にも利用できるパークセンター、イベントスペースとしても活用できる広場などを位置付け、スポーツ以外の目的でも日常的に立ち寄り、交流できる場を計画しています。
7	事業について	体育館整備によって公園の魅力や自由に使える空間が失われないようにしてほしい。	芝生広場、木陰、遊具、水景施設等を整備し、スポーツをする方もしない方も思い思いに過ごせる公園空間を確保する考え方としています。
8	事業について	設計段階で民間の提案・工夫を募る方針と、選定方法を協議会に説明すべき。	モデルプランは一例であり、パークセンターの配置に工夫の余地を確保すること、また、今後の民間活力導入可能性調査において民間意向を踏まえ、望ましい事業手法を選定します。具体的な事業者・設計者の選定方法については、今後の事業手法の検討に合わせて整理します。
9	事業について	荒川公園周辺を再整備する必要性や、なぜ現在地で整備するのかについて説明してほしい。体育館の建て替えだけでなく、改修のみという選択肢も含めて比較検討してほしい。	再整備の必要性は上位計画にて提示済みであり、整備予定地については、現在の位置が最適と考えています。 特に、体育館は、老朽化が進み、安全性や必要機能の確保のため、建て替えが必要であると考えています。このため、改修のみで対応することは想定していません。
10	整備条件について	ZEB Ready等の条件と工夫例を示しつつメイン・サブアリーナや駐車場の配置に、民間提案の余地を確保すべき。	計画段階では、必要条件を設定し、民間の提案を期待します。
11	整備条件について	Park-PFI導入で収益施設が増え、公園面積が更に縮小することを懸念する。	収益施設を導入する場合でも、できるだけ建築面積を縮小することや、建築物が公園の魅力施設となるように機能設定と配置の柔軟性を持たせる計画とします。

No.	分類	御意見	対応案
12	整備条件について	アリーナは2面にして公園や自由空間を確保した方が良いのではないか。規模拡大による空調費や稼働率を踏まえ、ランニングコストを検討すべき。	平常時も大会時も、今より多くの市民利用を推進するため、また公園の屋内施設としての利用も想定し、メインアリーナはバスケコート3面、パークセンターでもバスケコート2面相当の広さを確保する計画としました。 また、維持管理、改良及び修繕費などのライフサイクルコスト低減効果の高い施設を目指していきます。
13	整備条件について	現在より大規模な大会や障害者スポーツ、プロスポーツなど多様な利用のためバスケコート3面の需要がある。	メインアリーナは全国大会での利用を想定し、連続した3面の整備としています。これにより車いすラグビーの開催も可能な施設としています。
14	整備条件について	体育館と公園の機能や役割を整理した上で必要規模を整理し、それぞれの機能が十分に発揮できる配置にしてほしい。	公園、体育館及びパークセンターの役割を整理し、公園機能と体育館機能を相互に高める考え方です。公園広場は憩い・遊び・健康づくり・交流の場、体育館はスポーツ・健康づくりの拠点、パークセンターは両者をつなぐ多目的な屋内外の機能を有する施設を計画しています。
15	整備条件について	現在の体育館や公園の利用をできる限り継続しながら整備を進めてほしい。	工事期間中は一部使用不可の箇所が発生しますが、できる限り、利用を継続できるよう、施工手順を設計段階で検討します。
16	整備条件について	将来世代が使い方を工夫できる余白を残すべき。	パークセンターを、スポーツ利用に限らず、遊び、休憩、情報発信、各種教室等に活用できる多目的な空間として位置付けています。また、具体的な空間構成や使い方は設計段階で検討し、将来の利用変化にも対応できるよう計画します。
17	整備条件について	3面一体では規模が大きいため分割案も検討し、大会需要と活用方法から必要面数を整理すべき。	メインアリーナは全国大会時の利用を想定し連続したバスケコート3面の整備としています。サブアリーナ（パークセンター）については、運動施設としての利用や市民のための利用を想定し、バスケコート2面相当の広さを確保した計画としています。 サブアリーナ2面を一体とするか分割とするかは、配置も含め今後の設計の中で、公園利用と体育館利用の双方にとってより良い案を設計段階で整理します。
18	整備条件について	観客席数は3,000席を前提とせず、適正規模を再検討してほしい。	席数を前提としているのではなく、市民の意見を踏まえ、全国規模の各種大会が開催可能な体育館を実現することが必要と考えており、そのために必要な諸室の設置や観客席数を設定しています。
19	整備条件について	メインアリーナを2面から3面にした理由を明確に説明すべき。	現在の体育館の稼働率と、やむを得ず他体育館で実施している中学生等の各種大会の開催を含めるとともに、市民意見を踏まえ、全国規模の各種大会の開催や市民の日常利用、教室事業・屋内遊び場など多様な利用が見込まれるため、面数を増やしています。
20	将来像・目標について	「する・みる・ささえる」の考え方に加え、スポーツでは「つどう・つながる」の考え方を追加し、また、公園全体では、更に「憩う」の考え方を追加した整備とすべき。	公園と体育館の相互補完・相乗効果で、つどう、つながる、憩うを実現できる荒川公園となる計画としています。
21	将来像・目標について	駅前からの景観や来訪者への配慮を含め、現在の利用者だけでなくエリア全体の将来像を考えるべき。	熊谷駅南口エリアの活性化や荒川かわまちづくりと連携した南口エリア全体の価値を高める将来像を設定しています。
22	将来像・目標について	子どもたちが心も体も健やかに育つ場を整えるとともに、アクセスしやすく、誰もが日常的に気軽に利用できる地域の交流拠点にしてほしい。	子どもたちが将来も住み続けたいと思えるスポーツ・文化・健康・交流・防災の拠点をコンセプトに掲げ、多様な世代が集い、つながり、安心して利用できる場を目指しています。加えて、バリアフリー関係法令等を遵守し、全ての利用者が安全かつ円滑に利用できることを再整備要件としています。
23	施設整備について	サブアリーナは必要なのか、必要であればどのような活用を想定しているのか示してほしい。	サブアリーナを、公園の屋内広場や各種教室、市民のスポーツ・健康づくり、休憩の場として日常的に利用するとともに、大会時にはウォーミングアップ会場等としてメインアリーナを補完する施設として位置づけています。

No.	分類	御意見	対応案
24	施設整備について	共用部の集約・減築で公園空間を確保し、公園と一体化したアリーナを検討すべき。	公園と体育館を一体的な施設として捉え、両者をつなぐパークセンターを設けることで、公園機能と体育館機能の相乗効果を生み、公園全体の魅力を高める考え方としています。
25	施設整備について	ループアリーナを参考に、スロープやデッキで公園と体育館をつなぎ、市民利用重視の一体的な施設にしてほしい。	公園と体育館をパークセンターがつなぐ機能として想定しています。具体的な動線等については設計段階で検討します。
26	施設整備について	屋上利用について、公園と一体的な屋根として、作り方は色々と工夫が期待できる。	設計等までに効果的な施設内容を計画します。
27	施設整備について	公園とアリーナをつなぎ、かつ暑さや豪雨への避難場所として、治安面にも配慮した開放的な屋根付き広場が重要。	子どもの見守り、休憩、雨や日差しを避ける場として半屋外空間の整備を想定します。また、木陰、水景施設等を組み合わせ、夏でも利用しやすい暑熱対策を進めます。
28	施設整備について	緑地を守りつつスポーツ拠点として機能させるため、利用者増加を見込み、駅近でも公園と体育館の利用者向けの駐車場を整備すべき。	荒川かわまちづくりにより、河川敷に200~250台ほど駐車場が整備されることを受け、公園広場が駐車場により狭くなることがないよう、また、高齢者や障害者用の駐車場の確保、バス等の乗降場は確保することを前提とします。 駐車場利用率がそれほど高くない時間帯に駐車場の一部をイベントや遊び場として活用する方法も検討します。
29	施設整備について	高齢者・障害者用の駐車場は確保し、代替可能な駐車ますは周辺駐車場で担い、公園への負荷を抑えるべき。周辺駐車場と連携するのはどうか。	
30	施設整備について	通常はコート、イベント時は駐車場となるマルチパーパスコートにしても良いのではないか。必要台数の基準も確認したい。	
31	施設整備について	屋内外で気軽にスポーツや自主練習ができる環境を整えてほしい。	体育館では市民の日常的なスポーツ利用や教室事業を受け止めるとともに、パークセンターでは屋内遊び場や多目的な大空間を設け、屋内外を通じて気軽にスポーツや練習、身体活動ができる環境を整える考え方を示しています。
32	施設整備について	メインとサブの接続方法は、通路・一体建物・分棟など複数案を検討すべき。	モデルプランではコートの向きや配置はあくまでも例として示しています。メインアリーナとの接続方法を含む具体的な建物構成は固定せず、公園との一体性や利用しやすさを踏まえて、設計段階で検討します。
33	施設整備について	適正な観客席数とあわせ、観客席スペースの多目的利用も検討してほしい。	計画段階では、必要席数のみ設定し、利用の仕方に合わせた形態等については、設計段階で検討します。
34	施設整備について	サブアリーナというよりも、“屋根がかかった大空間”という位置付けと捉え、大会時のみコート利用になるといった構造も考えられる。	パークセンターを、日常的な屋内遊び場や休憩場所として利用できる大空間とし、大会時にはサブアリーナとして活用するなど、多目的な施設として検討します。
35	施設整備について	施設規模・配置だけでなく、入口景観や公園の美しさを高めるランドスケープとすべき。	荒川等の周辺環境との調和や、圧迫感の軽減、既存樹木を生かした緑豊かな空間形成に配慮する再整備として検討しています。
36	施設整備について	空調設備やトイレなどを充実させ、快適に利用できる体育館にしてほしい。	快適に利用できる体育館を目指すこととします。詳細については、設計段階で整理します。
37	施設整備について	芝生広場やくつろげる空間、水遊び場、親水施設など整備してほしい。	芝生広場、木陰、ベンチ・デッキ、遊具、水景施設、屋根付き広場等を配置し、ピクニック、運動、休憩など、多目的に利用できる公園空間を整備したいと考えています。
38	施設整備について	設計者選定の過程も透明に進めてほしい。	透明性のある方法で選定を進めます。
39	施設整備について	公園機能がどの程度残るのか明らかにしてほしい。	慰霊塔や児童館の移設等により、公園広場を確保することとしています。なお、具体的な施設配置等については設計段階で検討します。

No.	分類	御意見	対応案
40	施設整備について	河川敷駐車場との接続方法について検討してほしい。	荒川かわまちづくり事業も含めて、検討中です。
41	施設整備について	利用団体のニーズとして、天井高についても聞いておくべきではないか。	メインアリーナは全国大会時の利用を想定した高さ、サブアリーナ（パークセンター）は、メインアリーナの高さと必ずしも同等とする必要はないことを競技団体から伺っています。
42	施設整備について	建物高さやボリュームが周辺環境に与える影響を考慮した施設配置としてほしい。	体育館を現市民体育館側に、パークセンターを現公園南側に配置する考え方を示しています。また、周辺からの見え方や圧迫感の軽減、日照・通風等に配慮し、周辺環境への影響を抑えることを検討しています。
43	環境対策について	屋上緑化やシンボルロードの維持を評価する。マイクロバス乗降場と、席数増加に伴う駐車場・渋滞対策も検討してほしい。	交通渋滞については、交通シミュレーション調査を行っており、70台＋河川敷の250台が満車になる状況でも体育館整備に伴う新たな渋滞は発生しないと推察されています。マイクロバスの駐車スペースや乗降場については、施設整備計画で検討します。
44	環境対策について	ZEBや再生可能エネルギー導入など環境負荷を抑え、水遊び・日陰・屋根付き広場と建物の連続性を工夫し、公園の価値を高めるべき。夏の暑さ対策として、屋根付き広場があるとよい。	パークセンターや庇等の半屋外空間を設け、雨や日差しを避けて休憩できる場を確保するとともに、水景施設、芝生、緑陰等を組み合わせ、夏でも利用しやすい公園とする考えです。詳細については、今後検討します。
45	環境対策について	老齢化した樹木は適切に更新し、安全性と景観を維持すべき。	既存樹木を生かしながら緑化を進めるとともに、健全な樹木の生育に必要な剪定・更新、再配置を検討します。
46	環境対策について	現在の大木や並木、桜などをできるだけ残してほしい。	既存樹木を生かしながら緑豊かな空間を形成し、樹木の計画的な配置や適切な維持管理・更新により、安全性を確保します。
47	環境対策について	体育館整備により風の通り道が失われないようにしてほしい。	施設配置計画の参考にさせていただきます。
48	環境対策について	屋上緑化は本当に必要なのか、誰が管理するのかも含めて検討してほしい。	緑化及び管理は今後の検討とします。
49	暑熱対策について	荒川公園は気温が低く酷暑対策として有効だが、体育館の排熱はゼロカーボン宣言に反するのではないか。また、再生可能エネルギーの利用はどう考えているか。	暑熱対策を進めるとともに、ZEB Ready以上を条件と考えており、再エネの導入については検討します。
50	暑熱対策について	施設規模だけでなく、暑熱対策など公園側にとってもメリットを生むことを示すことも必要である。	水景施設、芝生、緑化駐車場、木陰、パーゴラ等を組み合わせた暑熱対策を示し、公園広場の快適性を高めることを検討します。
51	暑熱対策について	「日本で一番涼しい公園」を目指し、全国から注目される暑熱対策を進めてはどうか。	水・緑・日陰を生かした暑熱対策を進めるため、先進事例も参考にしながら検討します。
52	災害対策について	アリーナ配置と防災機能の関係を整理してほしい。浸水リスクのある場所で災害拠点を整備することが適切なのか検証してほしい。	現在は、荒川公園は地震時の一時避難場所（洪水時は避難不可）として、市民体育館は洪水時は第二避難所（地震時は避難不可）として位置付けられています。再整備後の浸水対策については、利用性や事業コストとのバランスを考慮しながら、防災機能に応じた配置・構造を検討します。
53	災害対策について	災害時の避難機能や防災機能をどのように確保するのか示してほしい。	様々な浸水対策を比較するとともに、浸水地域にある公共施設の整備事例等、災害時の避難場所及び避難所としての具体的な機能や運用については、想定浸水深や施設配置を踏まえ、設計段階で検討します。
54	事業費について	建設費だけでなく維持管理費を示してほしい。	今後、維持管理費を含む事業費を整理し、公表予定です。
55	事業費について	将来世代の税負担につながらないか慎重に検討してほしい。公園整備費を含めた事業全体の費用を示してほしい。	

No.	分類	御意見	対応案
56	事業費について	補助金を含めた事業の実現可能性を示してほしい。	使用可能な補助金については、現在整理中であり、可能性があるものについては、今後提示する予定です。
57	WSの進め方について	計画検討のプロセスを分かりやすく示してほしい。	参考資料でお示しします。
58	WSの進め方について	評価軸や比較条件が適切だったのか見直してほしい。	比較条件については、WSで出た意見を基に論点を整理し、設定しています。
59	WSの進め方について	利用者団体や障害者団体など、より幅広い意見を把握してほしい。	協議会メンバーには、利用団体を含め複数の団体のメンバーで構成され、幅広い意見をいただいています。今後も意見を収集する想定です。
60	WSの進め方について	意見交換や説明の機会を今後も継続してほしい。	今後も、御意見を伺う機会を設けていきます。
61	WSの進め方について	障害のある方が意見を提出しやすい仕組み（点字はがき等）を整えてほしい。	今後も、障害のある方が意見を出しやすい仕組みを検討します。
62	利用イメージについて	中学生アンケートでは、居心地の良い空間でくつろぐ、子どもがのびのびと遊ぶという意見が最も多いが、体育館の整備内容には反映されていない点が気になる。	公園での活動だけでなく、パークセンターを日常的な屋内遊び場や休憩場所として利用できる空間とし、暑さや天候に左右されずのびのびと遊べる環境になるように検討します。
63	利用イメージについて	駅前立地を生かしながら、スポーツだけでなく書道展や文化活動イベントなど多様な用途に活用できる拠点とすることで市外利用や交流人口の増加につながる施設としてほしい。	スポーツ大会や教室、日常的な運動に加え、イベント、式典、キッチンカーの出店、休憩・交流等の多様な利用シーンを想定しています。駅前立地を生かし、市民だけでなく市外からの来訪者も集う交流拠点となることを目指しています。
64	利用イメージについて	現在の公園利用や花火大会、さくら祭などの利用を今後どのように確保するのか示してほしい。	既存の並木や広場機能を継承し、花見や花火大会などのイベント時に人々が滞留・通行できる空間を確保するとともに、芝生広場や並木広場を日常の憩い・交流の場として活用する施設を計画しています。

※協議会資料につき複製・転用禁止

資料2

荒川公園周辺再整備基本計画案

2026.09.24

目次

１．　はじめに

２．　現状と課題

（１）熊谷駅南口エリアについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

（２）荒川公園・熊谷市民体育館について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

（３）市民の声 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

３．　再整備計画案

（１）コンセプト・再整備の目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

（２）市として実現すべき事項と必要な条件 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

（３）基本的な考え方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

（４）再整備の方向性 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

（５）諸課題への対応策の検討 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

（６）事業手法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

（７）再整備要件 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

１．はじめに

1．はじめに

荒川公園及び市民体育館は、市民のスポーツ・憩いの場として親しまれてきましたが、**体育館や公園の老朽化**が進み、施設の更新が必要な時期を迎えています。

少子高齢化やライフスタイルの変化により、**スポーツ・健康づくりや公園利用へのニーズは多様化**しており、施設の更新に際しては、新たなニーズに対応していくことが望まれます。

また、熊谷駅南口エリアでは、「**荒川かわまちづくり**」など、**駅から荒川までを一体的に捉えたまちづくりが進展**しています。公園・体育館を単体で捉えるのではなく、周辺とのつながりを生かして**南口エリア全体の魅力を高めていくこと**が期待されています。

本計画では、これらの背景を踏まえ、荒川公園・市民体育館が将来にわたり市民に親しまれる拠点となるよう、再整備の基本的な方向性を示します。





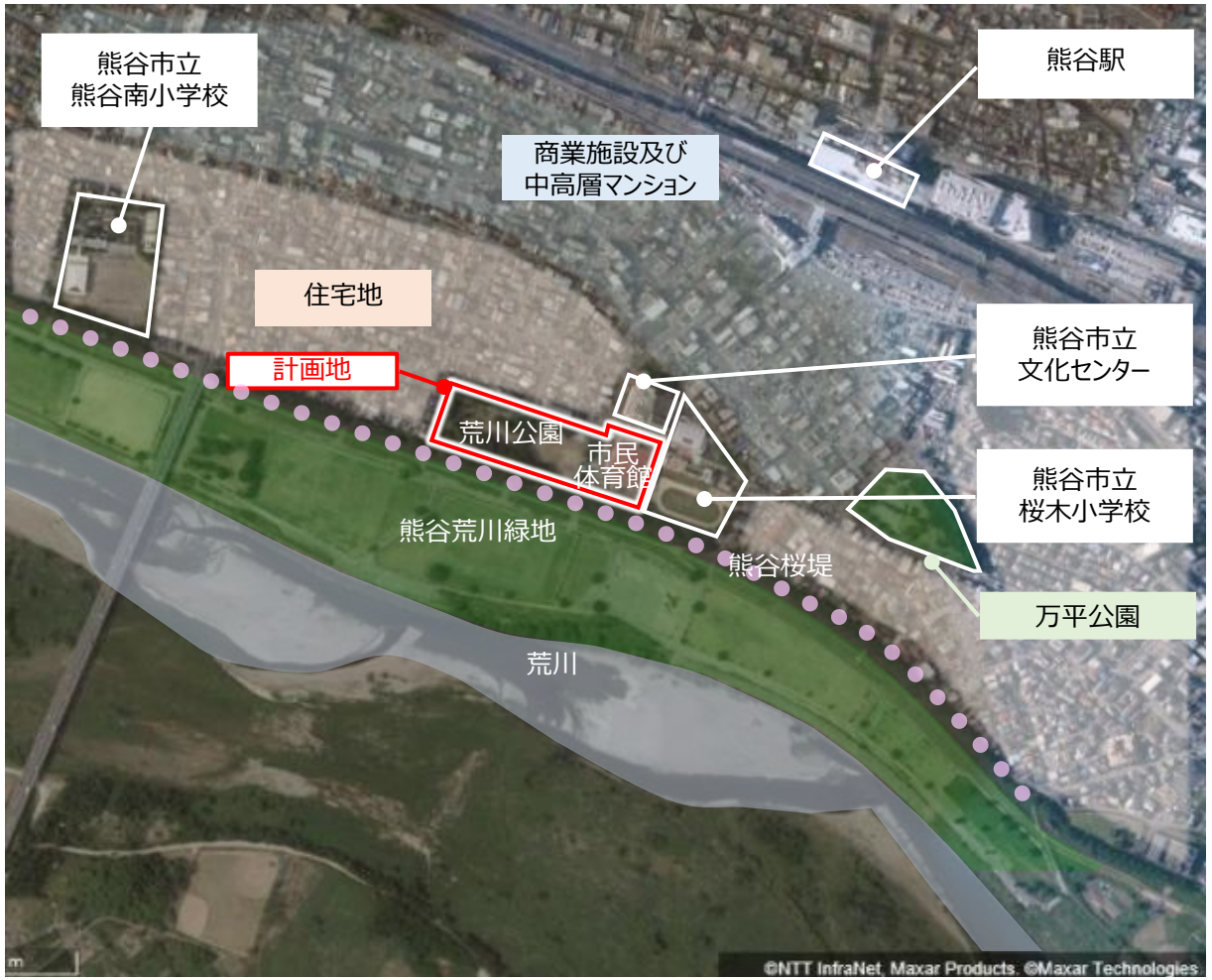


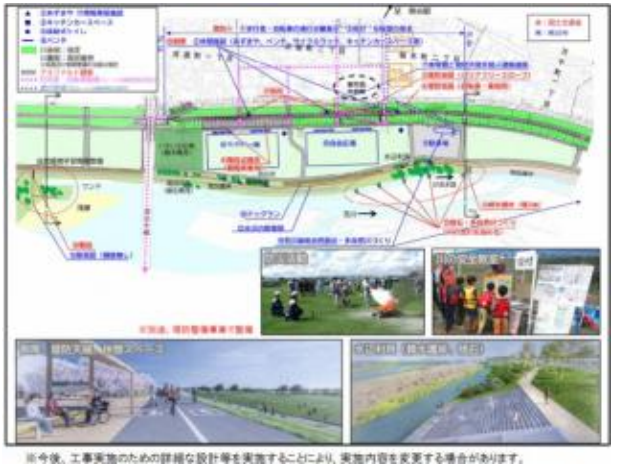
2．現状と課題

2．現状と課題　（1）熊谷駅南口エリアについて

計画地は熊谷駅南口から徒歩約5分に位置し、駅前の商業地・住宅地と熊谷荒川緑地をつなぐ結節点にあります。周辺では、熊谷駅南口エリアのまちづくりビジョンの検討や、「荒川かわまちづくり」など、熊谷駅から荒川までを一体的に捉えたまちづくりが進められています。

周辺で進むまちづくりと連携しながら、**駅南口エリアの魅力向上を担う拠点機能強化の形成**が期待されています。





出典：荒川かわまちづくり計画



※整備イメージ

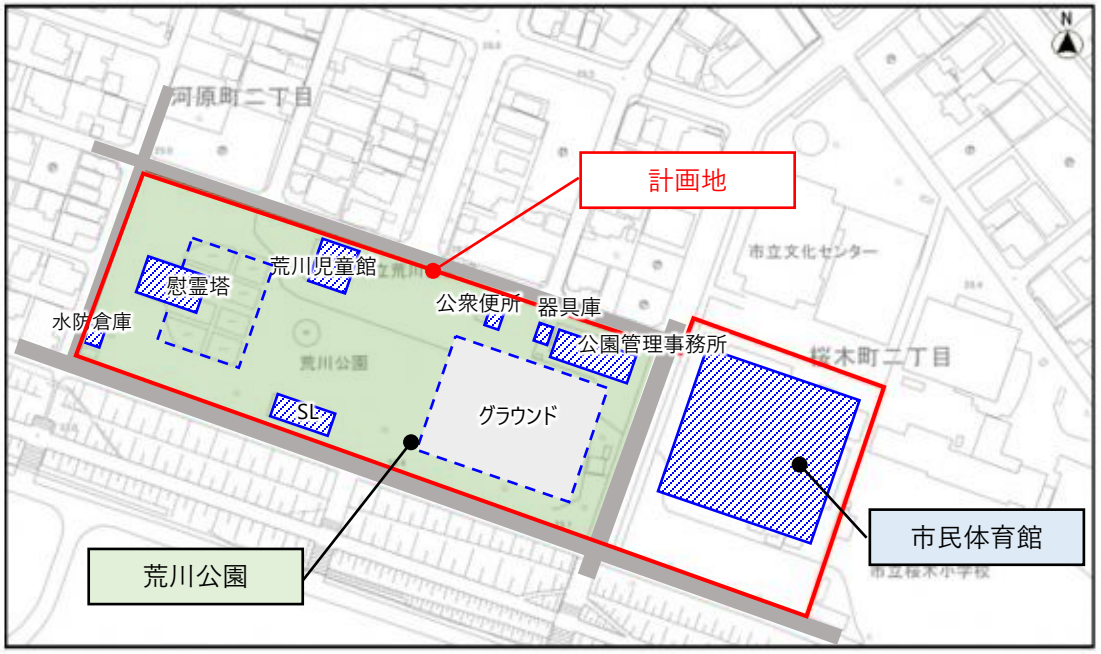
出典：荒川かわまちづくり計画

2．現状と課題　（2）荒川公園･市民体育館について

①施設の状況

計画地は、荒川公園と隣接する市民体育館を含む一体的な敷地で構成されています。

市民体育館は建設から約61年、荒川公園は開園から約50年が経過し、施設の老朽化や樹木の老齢化が進行しています。そのため、**荒川公園と市民体育館を一体的に再整備し、施設更新と魅力向上を図ること**が課題となっています。



※都市計画について、計画地は第一種住居地域であり、建築物の用途によっては床面積3000㎡を超える建築物の建築ができません。
現市民体育館と同等規模以上の体育館を整備する場合は、用途地域を変更する必要があります。

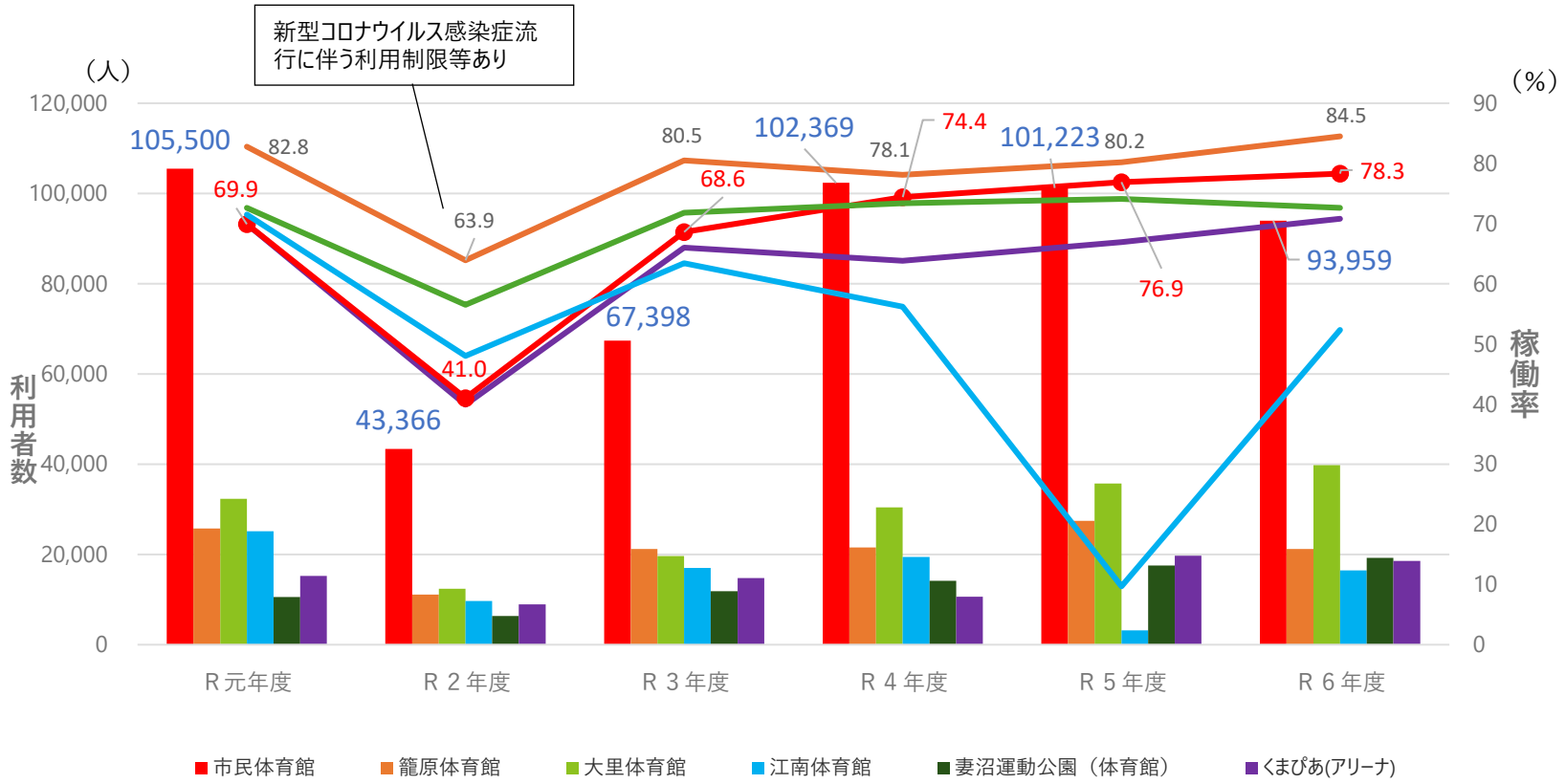




②市民体育館の利用状況

市民体育館は、市内体育館の中でも利用者数が多く、熊谷駅から徒歩圏に立地する利便性の高い施設です。市内の屋内スポーツ施設の拠点として、年間10万人を超える多くの市民に利用されており、アリーナ（競技場）の施設稼働率は8割近くに達しています。

立地に恵まれていることから市民のスポーツ活動の場としてだけでなく、市内外から集まる大会やイベントの会場としても期待されていますが、施設の規模や設備が大会等の利用には不十分であり、メリットを生かせていないことが課題とされています。



※市民体育館の稼働率はアリーナのみを抽出。
※妻沼運動公園（体育館）の稼働率は未集計。

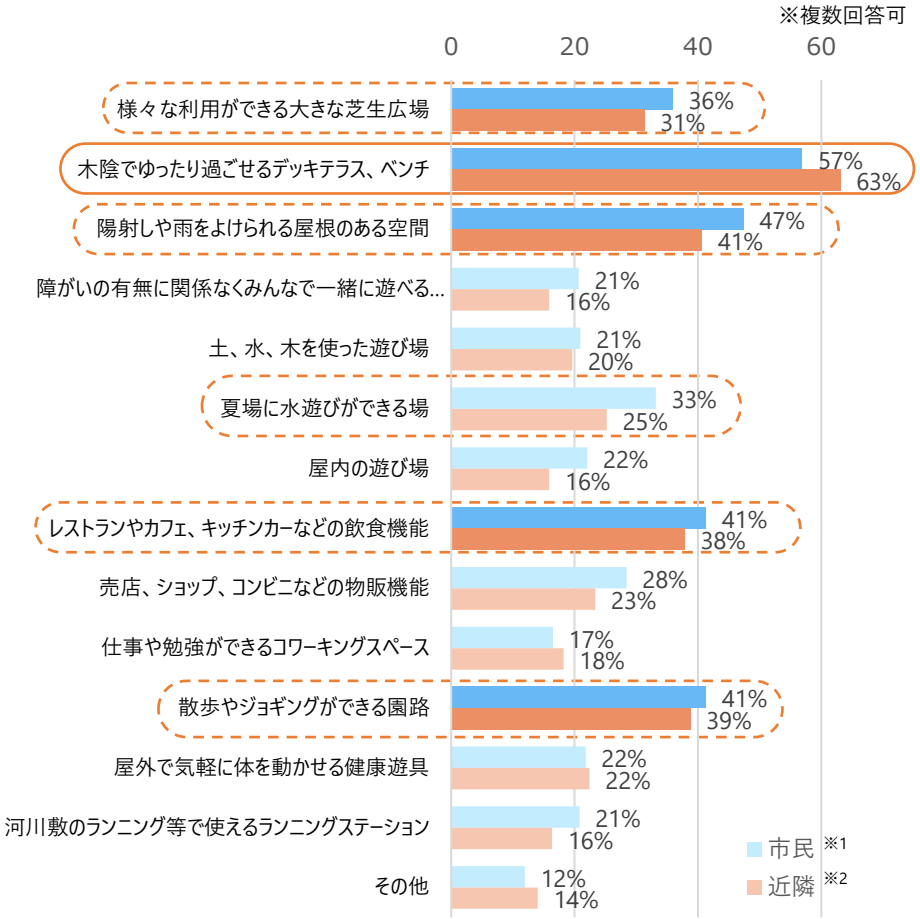
2．現状と課題　（3）市民の声

①アンケート

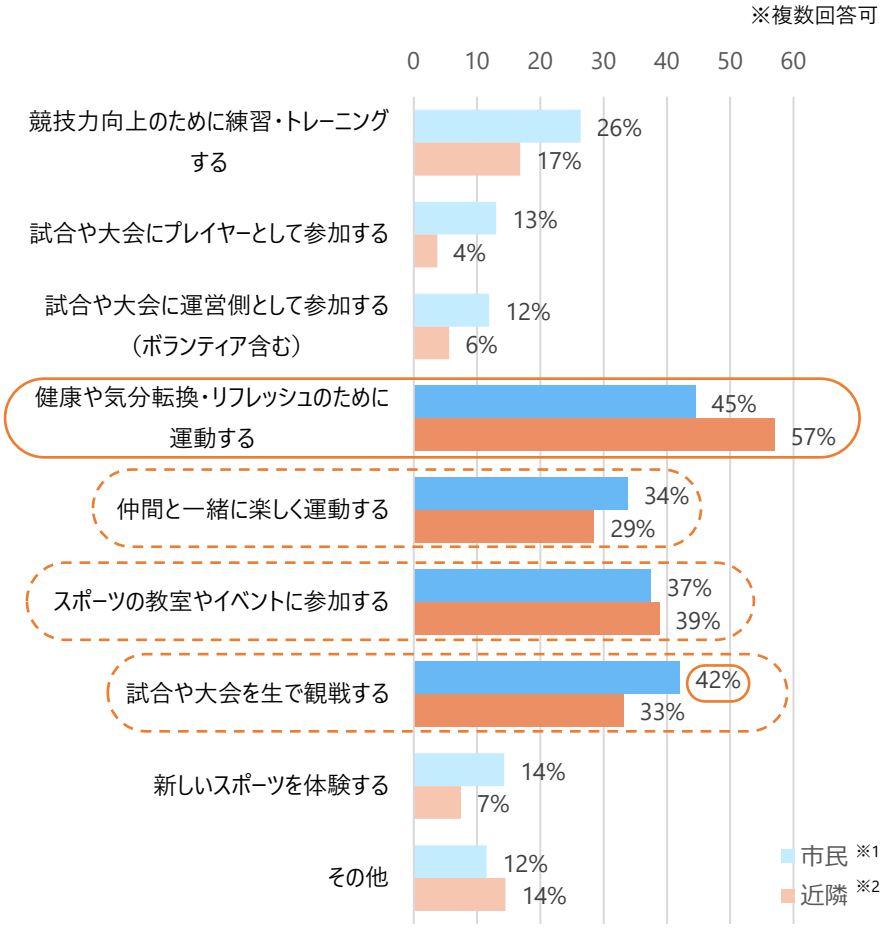
市民・近隣住民のアンケートでは、荒川公園や市民体育館について、健康づくりやスポーツ活動に加え、交流や憩い、イベント参加などの多様な利用ニーズがみられました。

再整備に向けて、**幅広い世代が快適に利用できる機能の充実と魅力向上**が求められています。

＜新しい荒川公園や体育館で利用してみたいと思う機能や施設＞



＜新しい体育館でしてみたいこと＞

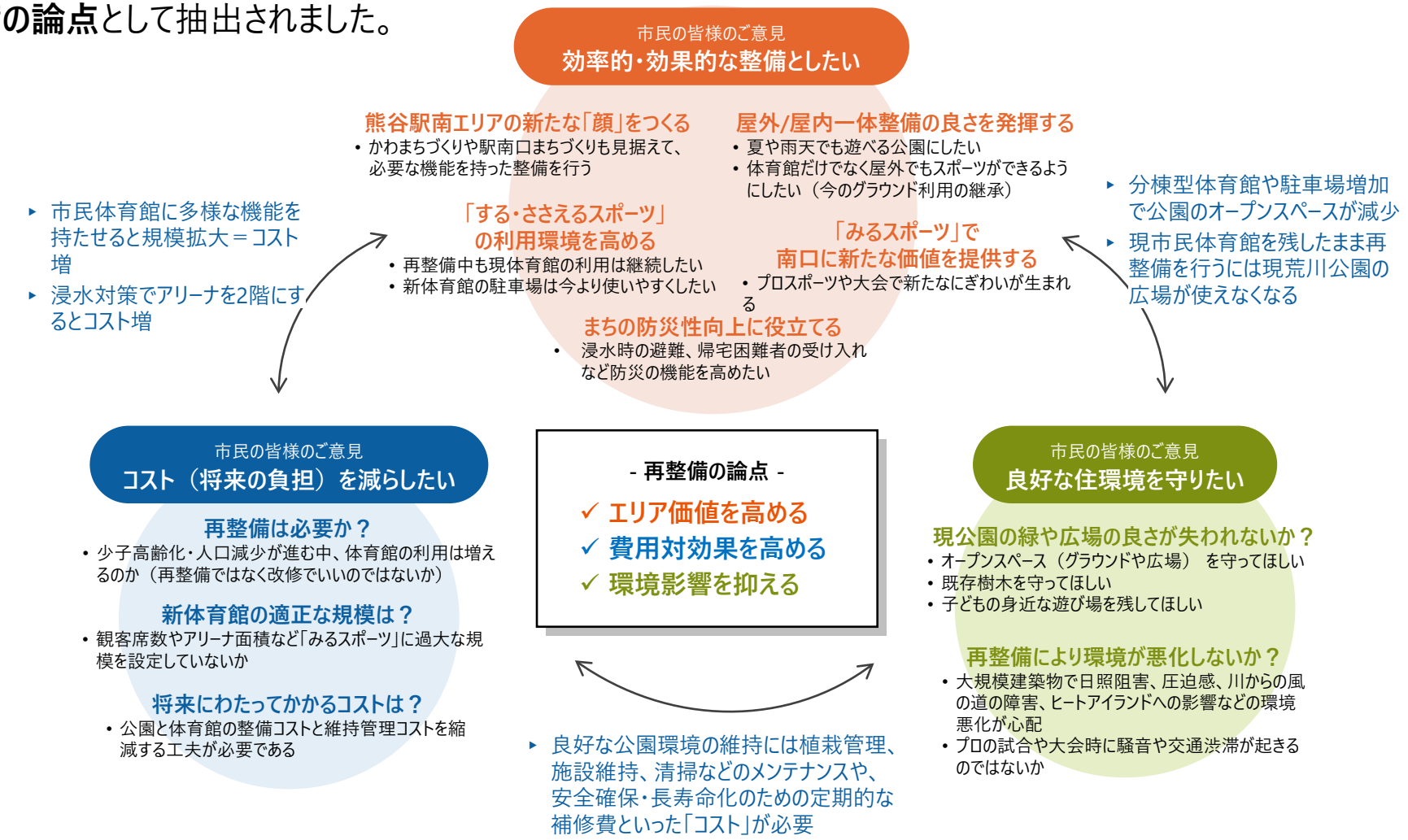


※1 市民アンケート－ 時期：2025年7月、対象：熊谷市民、方法：市報・HPに掲載、回答数:721件
※2 近隣住民アンケート－ 時期：2025年7月、対象：半径約1㎞県内の自治会加入世帯、方法：調査票配布、回答数：214件

②ワークショップ

市民ワークショップでは、体育館と公園の一体整備によりスポーツ環境や防災機能を高め、熊谷駅南口エリアの新たな「顔」をつくることへの期待が示される一方、コスト増や、公園の緑やオープンスペースの減少、住環境への影響を懸念する声も多く出されました。

これらのご意見は、**すべてを同時に叶えようとすると互いにぶつかり合う関係にあるため、バランスをどうとるかが再整備の論点**として抽出されました。



3．再整備計画案

3．再整備基本計画案　（1）コンセプト・再整備の目標

荒川公園・市民体育館は、まちなかの豊かな緑と屋内スポーツの拠点として市民に親しまれてきました。現在、熊谷駅南口エリアのまちづくりや荒川かわまちづくりの取組が動き始め、駅から川までを一体的に捉えてエリアの魅力を高める機運が高まっています。その動きに合わせ、熊谷駅と荒川をつなぐ結節点として、新たなにぎわいと交流を生み出す場へ生まれ変わることが求められています。

そこで、これからの荒川公園周辺のコンセプトと目標を次のように掲げます。

コンセプト

熊谷駅南口エリアの活性化や荒川かわまちづくりと連携して、南口エリアの価値を高める

子どもたちが将来も住み続けたいと思えるスポーツ・文化・健康・交流・防災の拠点



荒川かわまちづくり
河川空間とまちなか空間を一体で考え、
安全・安心・快適な地域の発展を目指す

（仮称）熊谷駅南口周辺まちづくりビジョン
市民生活を支える将来を見据えた
都市基盤・社会資本の整備

参考：WS意見をまとめたコンセプト案
案１：まちとかわをつなぎ みんなが楽しめる 熊谷の新たな顔
案２：緑と水にかこまれた 熊谷が誇る 新たなスポーツ・文化・健康拠点
案３：市民とともに熊谷駅南エリアの新しい価値をうみだす場

再整備の目標

- 熊谷駅南エリアの新たな「顔」となり、多様な活動や交流を育む
- 市民とともに豊かな緑を継承し、日常の暮らしを豊かにする
- "する・みる・ささえる・あつまる・つながる"で関われる、市民のスポーツ振興の拠点となる
- 誰もが安心して利用でき、災害時に地域の安全を支える

3．再整備基本計画案　（2）市として実現すべき事項と必要な条件

アンケート、ワークショップ、請願等で寄せられた市民意見を踏まえ、交流・滞在・既存利用への配慮・環境保全・防災の視点から、市として実現すべきことと、そのために必要な条件を次のように整理しました。

実現すべきこと	必要な条件
1 交流機能を高める	
全国規模の各種大会が開催可能な体育館とする	• メインアリーナは、公式試合でバスケットボール3面ができる大きさを確保 • サブアリーナを導入 • 観客席は固定で1,700席以上、仮設席1,700席以上を確保
多様な市民ニーズに対応できる公園や体育館とする	• サブアリーナや屋内遊び場を導入する • 憩える場をつくる（休憩や飲食スペース）
2 公園の滞在機能を高める	
猛暑対策等にも配慮した居心地の良い空間とする	• 緑陰やミストなど暑熱対策を充実させる • 屋外からアプローチしやすい屋内の休憩場所や遊び場をつくる
3 既存利用者に配慮する	
体育館の休止期間をできるだけつくらない	• 施工手順の工夫等により、休止期間をできるだけつくらない
公園の既存利用の継続、若しくは代替機能の確保を図る	• 公園内での各種活動のための機能の確保を、公園全体として図る
4 環境保全に配慮する	
地球環境・自然環境・住環境などの保全に配慮する	• 新たな体育館はＺＥＢ対応とするなど、温暖化対策に寄与する • グリーンインフラを積極的に導入するなど、緑の機能を向上させる • 設計や運用上の工夫により、住環境保全を図る
5 防災機能を高める	
水害、地震等でも避難所として機能する施設とする	• 新たに整備される避難所として、機能を充実させる • 水害時の浸水エリアになるため、これに対応した施設とする

再整備では、「公園か体育館か」ではなく、**両者を一体のものとして捉え、それぞれの機能を高めます。**
公園と体育館をつなぐ新たな機能として"パークセンター"を付加することで従来にない魅力を創出し、熊谷駅南口エリアの価値向上につなげます。

「公園 か 体育館 か」という二者択一ではない考え方へ

公園 × 体育館

公園機能

公園広場
再整備により、緑・憩い・にぎわいの場として機能を強化

従来にない魅力を創出する公園と体育館をつなぐ新たな機能
▶ パークセンター

体育館機能

体育館
再整備により、スポーツ・健康づくりの拠点機能を強化

本計画では、体育館を含む都市公園の敷地全体を「新荒川公園」、そのうち屋外の広場・緑地空間を「公園広場」、屋内のスポーツ施設を「体育館」、両者をつなぐ施設を「パークセンター」と表記します。

1）公園機能の向上の考え方

公園機能については、芝生広場や木陰、新たな遊び場・水遊びの場などを整備することで、子どもから高齢者まで多世代が日常的に集い、思い思いに過ごせる居場所の創出を目指します。

- **多世代が日常的に集い、ゆったりと過ごせる場の拡充**
  木陰の休憩空間の継承、芝生広場や水景施設等の整備により、これまで以上に、子どもから高齢者まで気軽に集い、くつろげる空間とします。
- **子どもの遊び場や家族で過ごせる空間の充実**
  芝生広場や、新たな遊具、水遊びができる施設などを整備することで、子育て世代の利用を促します。
- **市民の健康づくりや身体活動の機会を拡充**
  散歩やジョギング、軽運動、ボール遊びなど、日常的に身体を動かせる環境を整えることで、健康づくりの場として活用できるようにします。
- **イベントや交流活動を通じた地域の賑わいの創出**
  広場空間を確保し、熊谷さくら祭などの既存イベントの利用に加え、キッチンカーの出店など、市民ニーズに合わせた多様な利活用の場とします。

公園機能の拡充により、市民が思い思いに過ごせる居場所をつくる

現状

- 近隣住民や広場利用団体の利用があるほか、花見や花火のイベント時の滞留スペースとなっている
- 樹木が老齢化している
- 老朽化した遊具、緑化されていない広場など、現在の公園ニーズに対応しきれていない
- 子育て世代など若者の利用が乏しい

将来（主な利用想定と施設イメージ）

- **緑の中で憩える場**
  例）芝生広場、木陰、ベンチ
- **屋外でも陽射しや雨をしのげる場**
  例）屋根付広場、建物の軒下
- **子どもの遊び場**
  例）インクルーシブ遊具、ドライ噴水
- **市民の交流の場**
  例）イベント広場、コミュニティガーデン
- **市民が気軽に体を動かせる場**
  例）健康器具、芝生広場

3．再整備基本計画案　（3）基本的な考え方

体育館機能については、アリーナの規模を拡大し、市民の日常利用や教室事業・屋内遊び場などの多様な利用と、大会の開催とを互いに制限することなく両立できる体育館を目指します。

- **市民が日常利用しやすいスポーツ拠点の実現**
  アリーナの拡大やトレーニング室の追加により、既存の活動環境を維持しながら、利用機会が少なかった初心者や家族、小規模利用、健康プログラムなどの受け皿を拡大します。
- **市民利用と大会・イベントとの両立**
  サブアリーナの追加により、大会開催時でも一般利用を継続しやすくすることで、市民利用を制限することなく競技大会やイベントを受け入れられる環境を構築します。
- **災害時の防災拠点としての機能強化**
  平常時はスポーツ・交流拠点として活用しながら、災害時にはアリーナや観客席等を避難場所として活用でき、市民の安全・安心を支える施設とします。

アリーナ規模の拡大により大会利用・市民利用・教室事業などの多様な利用を可能にする

現状（主な利用と課題）

［平日］

（バスケコート2面）

市民	市民

- 市民サークル等の利用で埋まっており、スポーツや健康づくりの教室等が実施できない

［休日］

（バスケコート2面）

大会	大会

- バスケコート2面分では規模が小さく、大会運営に課題あり
- 市民利用の枠がとれない

※新施設整備後には、スポーツ協会等により大会等の誘致や管理者による教室事業等の展開により、現状にそん色ない稼働率を見込む

	利用コマ数	開館コマ数	稼働率
現在（R7実績）	1,543	2,154	71.6%
将来（見込み）	4,718	5,385	87.6%

将来（主な利用想定と効果）

［平日］

（メインアリーナ：3面）

市民	市民	市民

（サブアリーナ：2面）

教室遊び	教室遊び

- サークル等のニーズに応えながら教室事業を実施できる
- 屋内遊び場としても利用できる

［休日］

（メインアリーナ：3面）

大会	大会	大会

（サブアリーナ：2面）

大会市民	教室市民遊び

- バスケコート3面分があれば各種競技大会を開催できる
- 大会開催中も市民利用や屋内遊び場としての利用ができる

参考）体育館再整備後の稼働率の見込み試算

コマ数に基づく稼働率見込

※面数別に1日3コマ（午前・午後・夜間）、開館日数359日で算出。

現状（令和７年度）・２面

	利用実績	開館コマ数	コマ数稼働率	（参考） 利用実績推計	（参考） 利用実績推計 コマ数稼働率
平日	975	1,452	67.1%	1,439	99.1%
土日祝	568	702	80.9%	787	112.1%
合計	1,543	2,154	71.6%	2,226	103.3%

※（参考）利用実績推計は、現在の市民体育館では受け入れられず、取りこぼしている大会や利用の見込を含めたもの。

将来―メインアリーナ・３面

	利用見込	開館コマ数	コマ数稼働率
平日	1,672	2,178	76.8％
土日祝	1,035	1,053	98.3％
合計	2,707	3,231	83.8％

将来―サブアリーナ・２面

	利用見込	開館コマ数	コマ数稼働率
平日	1,310	1,452	90.2％
土日祝	701	702	99.9％
合計	2,011	2,154	93.4％

将来―合計

	利用見込	開館コマ数	コマ数稼働率
平日	2,982	3,630	82.1％
土日祝	1,736	1,755	98.9％
合計	4,718	5,385	87.6％

3）公園と体育館をつなぐ新たな機能（パークセンター）導入の考え方

公園と体育館をつなぐ核となる屋内外一体の居場所を生み、スポーツをする方もしない方も立ち寄りやすく、猛暑時などでも快適に過ごせる空間をつくります。

▸ **公園機能と体育館機能をつなぐ核による魅力向上**
パークセンターは、体育館のサブアリーナとしての機能に加え、公園の屋内空間として、遊び、休憩、情報発信などの機能を備え、スポーツをしない人も立ち寄りやすい空間として、公園全体の魅力向上につなげます。

▸ **公園利用の快適性と安全性の向上**
更衣室や休憩スペース、屋内待機場所を確保することで、子ども連れや高齢者を含む多様な利用者が安心して過ごせる環境を提供するとともに、猛暑時のクールシェアや雷雨時の一時避難場所として活用します。

パークセンターを新たに設けることで多様な利用者が過ごしやすい空間を実現する

現状

- 猛暑や異常気象により、屋外の利用環境が悪化している
- 児童館はあるが、誰もが利用しやすい日差しや雨をよけられる屋根のある空間がない
- 荒川公園と市民体育館は連携が乏しい

将来（パークセンターにより生まれる新たな魅力）

▸ **屋内外を一体的に使いやすい空間とすることが可能**

例）　✓ コンクリート土間やガラス張りの引き戸で屋外空間とフラットにつながり、誰でも立ち寄りやすいエントランスやラウンジ空間





リニモテラス（長久手市）
出典：リニモテラスホームページ



おにクル（茨木市）
出典：おにクルホームページ

※掲載している写真はイメージです。
全国の事例を参考に使用しており、実際の整備内容を示すものではありません。

１）将来の利用シーン

新荒川公園の将来の使い方として、体育館、パークセンター、公園広場での利用シーンを、アンケートやワークショップで寄せられた市民意見を基に９つに整理しました。

共通	誰もが気軽に 体を動かす	居心地の良い空間で くつろぐ	みんなで災害に 備える
公園広場 ・ パークセンター	豊かなみどりに 囲まれ自然を感じる	子どもが のびのびと遊ぶ	季節感を楽しむ
体育館 ・ パークセンター	スポーツ教室に 日常的に参加する	スポーツ大会に 出場する・サポートする	スポーツ・イベントを みて楽しむ

2）施設・空間構成の考え方

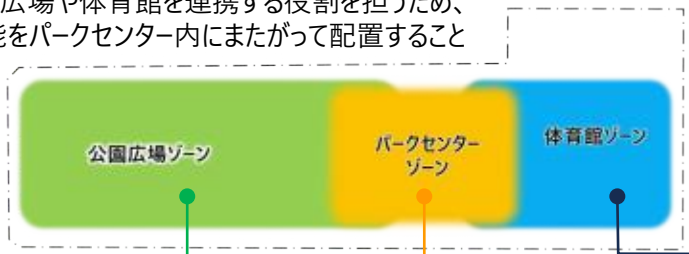
整理した条件と９つの利用シーンを踏まえ、それらを実現するために必要な施設と、その空間構成の考え方を次のように整理しました。

利用シーン	施設イメージ	空間構成
豊かなみどりに囲まれ自然を感じる	芝生広場、木陰、ベンチ・デッキ	**憩える空間**：既存の緑を生かしながら多目的に使える芝生広場を配置
誰もが気軽に体を動かす	健康器具、多目的広場	**屋外で運動できる空間**：気軽な運動ができる遊具やオープンスペースを配置
スポーツ教室に日常的に参加する スポーツ大会に出場する・サポートする スポーツ・イベントをみて楽しむ	メインアリーナ、サブアリーナ、柔剣道場、トレーニング室、管理室、駐車場・駐輪場	**体育館を配置する空間**：現体育館の位置に、体育館を配置し、隣接してパークセンターや駐車場を配置
居心地の良い空間でくつろぐ	共用空間、トイレ、授乳室	
	エントランス広場	**公園の顔をつくる空間**：公園正面入口となり、体育館利用者の滞留空間としても活用
	屋根付広場、屋上広場	**遊びの空間**：幼児から児童まで年齢に合わせた遊具や、水遊び場、屋内遊び場など多様な遊びニーズに対応し、遊び場の近くには見守り・休憩に使える屋根付広場を設置
子どもがのびのびと遊ぶ	遊具、屋内遊び場	
	水景施設	
季節感を楽しむ	キッチンカー等出店可能な広場、SL展示	**市民が交流できる空間**：季節の祭に加え、日常イベントなど市民の交流を育む空間を継承
みんなで災害に備える	防災倉庫、広場等	－（全体）

3）ゾーニングと施設の再整備要件の検討
（各施設のデザインや詳細な配置は、設計段階で決定するため、基本計画ではそのための要件を整理します）

- 近年、公園やスポーツ施設などの公共施設は、時代や技術の進歩にあわせて、施設整備や運営の面で民間のノウハウを活かしながら、市民の多様なニーズに応える様々な工夫がなされるようになってきました。
- 本事業においては、設計者や運営者に、これを実現するように求める各ゾーン・施設の再整備の要件を定めます。

◆ パークセンターは、公園広場や体育館を連携する役割を担うため、それぞれの施設の機能をパークセンター内にまたがって配置することがあります



スタディープラン（規模と機能配置の検証の一例）



（参考）概算整備費：約119億円（建築関連：108億円、公園広場関連：11億円）

公園広場の再整備要件（抜粋）
- 多世代が日常的に集い、ゆったりと過ごせる緑の空間
- インクルーシブ遊具や健康遊具など子どもから高齢者まで、多様な来園者に配慮した遊具
- イベントや軽スポーツやレクリエーションを楽しめる空間
- ユニバーサルデザインに基づくトイレ等
- 水景施設、屋根付き空間など、国内有数の暑熱対策
- 樹木の適正な更新を図り、南口の顔となるプロムナード

パークセンターの再整備要件（抜粋）
- 公園広場（屋外空間）と体育館（屋内空間）を連携し、従来の荒川公園にはない新たな魅力
- 気象条件によらず遊びやすい空間
- 屋外の猛暑や雷雨などからの回避も兼ねられる交流空間。
- 大会等の開催中も市民のスポーツ利用を確保するサブアリーナ（既存利用を担保するバスケットボールコート２面相当）
- 新たな公園の顔として、エントランス空間
- バリアフリーに配慮し車寄せや身障者用駐車場など
- 公園・体育館利用者の駐車スペース
- 浸水想定に対応した避難所
- ＺＥＢ対応の建物

体育館に求める再整備要件（抜粋）
- 市内の中学生が一堂に会する大会や高校生の県大会をはじめ、バスケットボールなどの関東、全国規模の大会や車いすラグビーの開催可能なメインアリーナ（バスケットボールコート３面相当）
- 市民の健康づくりを支援するトレーニングルーム
- 多様なスポーツ、レクリエーションが実施可能な多目的ルーム
- 地域防災計画に基づく避難所機能
- ＺＥＢ対応
- 周辺への騒音対策

＊詳細は（7）再整備要件に記載しています

4）各ゾーンの利用シーン・整備イメージ

※掲載している写真はイメージです。
全国の事例を参考に使用しており、実際の整備内容を示すものではありません。

ピクニック・軽スポーツ・レクリエーション



インクルーシブ遊具・健康器具等



ウォーキング・ジョギング



屋内遊び場



庇・屋根付広場



大会誘致に有利なメインアリーナ
イベントや式典に利用できる
バスケットボール３面のアリーナ



市民の健康を支えるトレーニングルーム



安全・安心の避難所



１）暑熱対策

近年の極端な気温上昇に対応するため、公園広場や体育館を安全かつ快適に利用できるよう、暑熱対策に力を入れます。「暑いまち」で知られる熊谷だからこそ、「**日本一“暑さ対策”が進んだ公園**」を目指し、水・緑・日陰を生かした工夫を重ねていきます。

-現状 -







＋

屋外空間における暑熱対策をアップデート

1 “水”の活用

水を活用した暑熱環境の改善を図りつつ、子どもの遊び場としても活用できる。

例）

✓ ミスト



2 “緑”の活用

芝生の広場や、緑化駐車場により、地表面温度の低下を図り、微気象の緩和に貢献する。

例）

✓ グラウンドの芝生化

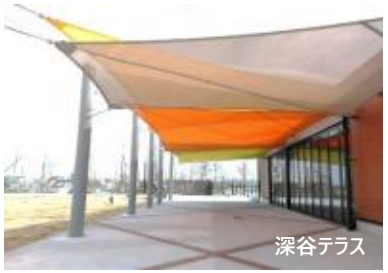


3 “日陰”の創出

木陰や小規模なシェルター等の日陰空間を確保し、休憩や子どもの見守り空間を創出する。

例）

✓ 日除け



※具体の対策手法は、設計段階での検討を想定します。
※掲載している写真はイメージです。
　全国の事例を参考に使用しており、実際の整備内容を示すものではありません。

２）環境保全

地球環境・自然環境・生活環境のそれぞれの保全に配慮した対策を取り入れていきます。

1 地球環境保全・温暖化対策

- 基準値から50%以上の一次エネルギー消費量を削減するZEB Ready認証の建物とする。
- 遮熱塗装、高反射外装等によりヒートアイランド対策に寄与する低熱容量建物とする。
- 微気象緩和に寄与するグリーンインフラの導入を積極的に進める。

＜対策例＞

ZEB Ready認証を受けた白石市文化体育活動センターの概要



2 自然環境保全

- 樹木の計画的配置や芝生広場の整備、グリーンインフラの導入により公園内の緑の多様性や水循環を確保する。
- 適正な緑の維持管理・更新により元気な（安全・安心・美しい）緑を増やす。

＜対策例＞



雨庭
（六仙公園）



駐車場緑化
（埼玉県庁駐車場緑化モデル展示場）

3 生活環境保全

- 建築上の工夫により騒音対策を徹底する。
- 河川敷駐車場とあわせたＩＴ技術等を生かした駐車場運用や来場者コントロールによる交通渋滞等を回避する。
- 外観デザインや素材、色など建築上の工夫により圧迫感を軽減する。

＜対策例＞



アリーナ上部に吸音板を整備
（中野区総合体育館）



IT活用による駐車場管理イメージ

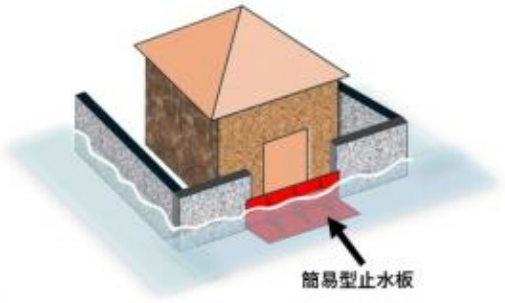
※詳細は、設計段階での検討を想定します。
※掲載している写真はイメージです。全国の事例を参考に使用しており、実際の整備内容を示すものではありません。

３）建築物の工夫による浸水対策

- 現公園側は最大1.6mの浸水可能性があることが示されているため、浸水対策が必要です。
- コストや屋外との連続性、バリアフリーなど種々の要因を組合せて判断し、よりよい方法を設計段階で検討します。

止水板による浸水対策

- 止水板、防水壁を設置し浸水を防止
- 公園広場との連続性は保ちやすい
- ピロティ方式等と比較すれば安価



出典：川崎市ホームページ

浸水許容型による屋外との連続性確保

- 浸水しても清掃しやすい床材の土間などを１階に配置（それ以外は２階に配置）
- 屋外からの連続性が確保しやすく、公園広場と屋内の行き来が容易
- 休憩や降雨・陽射しを避けて室内で交流しやすい





止水板による浸水対策の導入事例

- 千葉公園 YohaSアリーナでは、2024年の大雨による浸水被害を受け、止水板や下水貯留施設などの対策を実施。
- 止水板は、大雨時に公園外からの浸水や施設内部への流入を抑制する防災設備として機能。
- 2026年8月の豪雨では、公園内で一部冠水が発生したものの、アリーナ内部への浸水は防止された。



※掲載している写真はイメージです。全国の事例を参考に使用しており、実際の整備内容を示すものではありません。

3．再整備基本計画案　（6）事業手法

基本計画策定後は、**設計（基本設計・詳細設計）→工事→運営管理**の順で進みます。
今後実施する、事業者へのヒアリング結果などを踏まえて、いずれの方式で行うかを決定していきます。

事業手法例	設計	工事	運営管理	特徴
従来方式	市が設計会社に委託	市が工事会社に発注	市が事業者を選定し指定管理	民間事業者の撤退や経営状況の影響を受けにくい 民間の創意工夫を取り入れにくい
民活導入				
ＤＢ＋Ｏ	市が設計・建設を行う事業者に一括発注		市が事業者を選定し指定管理	民間事業者の知恵やノウハウを、施設整備、運営に活かしていきやすい。
ＤＢＯ	市が資金調達した上で 施設の設計・建設（改修含む）、運営・維持管理を民間事業者に性能発注で包括的に委ねる			
ＰＦＩ	施設の資金調達、設計・建設・運営・維持管理を民間事業者に性能発注で包括的に委ねる			
Park- PFI	飲食店、売店等の公募対象公園施設の設置又は管理と、その周辺の園路、広場等の特定公園施設の整備、改修等を事業者に一体的に委ねる（公園全体が対象となるとは限らない）			公園管理者の財政負担を軽減しつつ、都市公園の質の向上、公園利用者の利便の向上を図ることができる

従来方式における運営管理については、市の直営や業務委託によるところもあるが、指定管理制度を用いることを想定しました。

※事業手法は　現時点での例です。

3．再整備基本計画案　（7）再整備要件

これまでの検討を踏まえ、公園広場・パークセンター・体育館の再整備に求められる要件を整理しました。

①全体

項目 大分類	項目 小分類	整備要件
基本的な考え方	目標	• 「公園機能×体育館機能」として一体的に利用できる施設とし、熊谷駅南口エリアの活性化や荒川かわまちづくりと連携して、南口エリアの価値を高める。 • 子ども達が将来も住み続けたいと思えるスポーツ・健康・文化・交流・防災の拠点を目指す。
	景観	• 南口エリアを象徴する公共施設として地域のシンボル、ランドマークとなるような建築デザイン・ランドスケープデザインとすると共に、荒川など周辺環境と調和したデザインとする。 • 周辺地域や歩行者等からの見え方に配慮し、圧迫感を軽減するように計画する。
	環境保全	• 公園全体で多様な暑熱対策を講じ、夏でも利用しやすい公園環境の形成を図る。 • 既存の樹木を生かしながら、緑化も進め緑豊かな空間を創出する。 • 体育館はZEB Ready以上の高い認証取得を目指し、省エネ性能を高める。 • 太陽光等の自然エネルギーを利用した環境設備について、積極的な導入を図る。
	周辺環境配慮	• 近隣住宅に対し、建築物の配置、ボリューム、照明計画、騒音対策等について十分に配慮する。 • 近隣への騒音抑制をはかり、現状レベル以下とする。 • 排気・廃熱による近隣への影響が無いように計画する。 • 荒川河川敷駐車場とあわせた駐車場運用や来場者コントロールによる交通渋滞等の回避に努める。
	安全性	• 自然災害や火災等の非常時における防災対策や避難の安全性に配慮した施設とし、立地適正化計画及びその防災指針における防災上の条件に適合させる。 • 本敷地において将来生じる可能性のある水害に対して、メインアリーナへの浸水を防ぐように計画する。
	ユニバーサルデザイン	• 高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）、熊谷市バリアフリー基本構想など、関係する法令、指針及び基準等を遵守し、全ての利用者が安全で円滑に利用できるようにする。
	経済性（耐久性）	• 耐久性と将来の更新や変化に配慮したフレキシビリティを確保することで施設の長寿命化を図る。 • 維持管理、改良及び修繕費などのライフサイクルコスト低減効果の高い施設とする。 • 外構においても、維持管理や植栽の管理が容易になるように計画する。 • 諸室の機能は、公園広場、体育館、パークセンターで利便性と経済性に配慮して配置する。
	市民参加	• 多様な利用者ニーズを把握するため、設計段階及び施工段階・運営段階において、地域住民や高齢者、障害者、子育て、スポーツに関わる各種団体等へのヒアリング及び意見交換の場を設けるとともに、これらの団体等が参加するワークショップ等を開催し、そこでの意見を集約し、設計・施工・運営へ反映する。

②公園広場

項目 大分類	項目 小分類	整備要件
公園広場	目標	• 市民が思い思いに過ごせる居場所をつくる。 • 市民の憩い、子どもの遊び、健康づくり、交流の場とする。
	基本要件	• 豊かなみどりに囲まれ自然を感じ、季節変化を楽しみ、憩い、くつろげる空間とする。 • 子どもがのびのび遊んだり、誰もが健康のために体を動かせる空間とする。 • 既存の樹木を生かしながら、緑化も進め緑豊かな空間を創出する。既存樹木は、健全な樹木の生育に必要な剪定・更新を実施し安全性を確保する。 • 広場空間は花見や花火大会などのイベント時の人々の滞留や通行に供する。 • 地震等の災害時の一時避難場所とする。 • 熊谷の気候特性を踏まえ、日陰、緑陰、屋根付き広場、水遊び場、ミストなど涼を取れる屋内外空間等を組み合わせ、暑熱環境に対応した公園とする。 • コミュニティガーデンなど地域住民が公園の整備・運営に参加できる内容について、地域の意向を把握しながら検討していく。
	配置	• 中央の並木より西側を中心に配置する。
	主要な施設等	• 誰もが快適に憩い、くつろげる芝生広場、園路、ベンチ等の休憩施設を設ける。 • 夏の猛暑日を避けるための日陰を提供し、熱中症のリスクを低減するための日除け施設を設ける。 • 子どもの能力や特性、背景などにかかわらず、あらゆる来園者に開かれたインクルーシブな遊び場を設ける。 • 夏場に水遊びができ、オフシーズンでも、広場空間等として活用可能な施設を設ける。 • 散策、軽運動、健康遊具、ウォーキング等の高齢者をはじめ幅広い世代の日常的な健康づくり・体力づくりに対応した広場、園路、健康器具を設ける。 • SLは現在の位置で保存することとする。 • 慰霊塔、児童館は敷地外への移設が決定している。
駐輪場 駐車場	–	• 駐車機能は、現状と遜色ない利用環境を確保する。その際荒川かわまちづくりにおいて、河川敷に整備される駐車場（200～250台程度）も活用する。 • 適正な規模の駐輪場を確保する。
園内 車道	–	• 現在、荒川公園と市民体育館の間を通行している道路については廃道して園内通路とするが、引き続き車両通行機能を確保する。

③体育館

項目 大分類	項目 小分類	整備要件
体育館	目標	• アリーナと公園が連携し、スポーツを「する・みる・ささえる・集う・つながる」活動の拠点となる。
	基本要件	• スポーツ大会やイベントの開催により地域活性化に寄与する施設とする。 • 市民や来訪者が集う交流拠点とする。 • 全国規模のスポーツ大会や各種イベント、式典の開催に対応できる施設とする。 • 地震や水害等の災害発生時において避難所として機能し、市民の安全・安心を支える施設とする。
	アリーナ （用途・仕様）	（用途） • バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、車いすラグビー等の競技利用を想定する。 （仕様） • 全国規模の大会開催を念頭に置きバスケットボールコート3面を確保できる広さとする。
	観客席	• 一定規模の大会の誘致を考慮し、固定席1,700席以上、仮設席1,700席以上とする。
	その他諸室	• トイレを設ける。 • 体育館またはパークセンターに防災倉庫を設ける。
	配置	• 現市民体育館敷地への配置を基本とする。 • 公園全体及び周辺環境との調和に配慮した配置とする。
	建築外構	• 体育館エントランス周辺に、利用者の滞留や交流を促す空間を確保する。

④パークセンター

項目 大分類	項目 小分類	整備要件
パークセンター	目標	• アリーナと公園が連携し、スポーツを「する・みる・ささえる・集う・つながる」活動の拠点となる。
	基本要件	• 市民のスポーツ・健康づくりや子どもの遊び、休憩等、多様な活動やコミュニティ形成を支える施設とする。 • メインアリーナのサポート機能を備えた施設とする。 • 人道橋との接続等により、荒川緑地とのアクセス性・回遊性の向上を図る施設とする。 • 屋上のオープンスペースは、市民が日常的に滞留・交流できる空間とする。 • 市内大会等の継続的な開催に配慮し、施設整備に伴う体育館の休止期間を可能な限り生じさせない施設計画とする。
	サブアリーナ （用途・仕様）	（用途） • バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球等の市民利用を想定する。 • 子どもの屋内遊びや各種教室等の屋内活動の利用を想定する。 • 小規模大会の会場やメインアリーナでの大会開催時のウォーミングアップ会場、イベント開催時の運営サポートとしての利用を想定する。 （仕様） • サブアリーナはバスケットボールコート2面分を基本とする。
	その他諸室	• トレーニング室を設ける。 • 剣道場・柔道場を設ける。 • 屋内遊び場等、子どもが遊べる空間を設ける。 • 授乳室やトイレを設ける。 • パークセンターまたは体育館に防災倉庫を設ける。 • 利用者が休憩や飲食などができる空間を設ける。
	配置	• 現市民体育館敷地と並木の間の区間に配置する。 • 公園のオープンスペースの確保や公園利用者のアクセス性・回遊性の向上を図れる配置とする。 • コートの向きや配置については自由な提案を許容する。 • 公園と一体的に利用できる空間構成とする。
	建築外構	• 庇を活用した日陰空間を確保する等、建物と公園の連続性に配慮した空間構成とする。 • 体育館エントランス周辺に、利用者の滞留や交流を促す空間を確保する。

参考資料

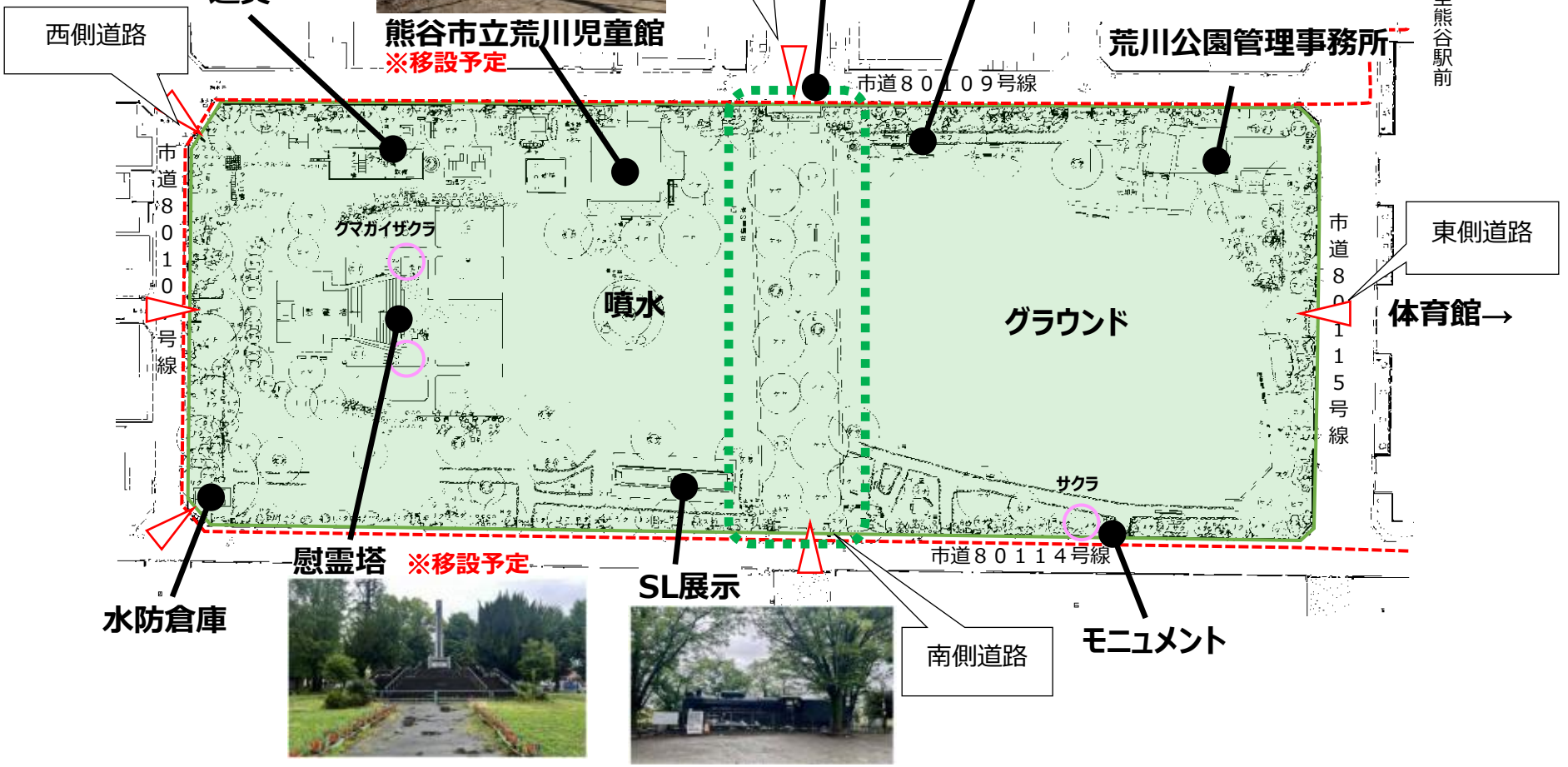
参考資料

1. 計画地概要
2. 荒川公園概要
3. 市民体育館概要
4. 市民意向調査
5. スポーツマネジメントの位置づけ調査
6. 樹木調査
7. 交通量調査
8. 騒音調査
9. 事業者ヒアリング調査
10. 過年度モデルプラン

1．計画地概要

現荒川公園における既存施設の配置状況は、以下の通りです。





2．荒川公園概要

全体概要

名称	荒川公園
所在地	熊谷市河原町二丁目
開園	昭和51年
面積	15,119.15㎡
種別	近隣公園
施設	荒川公園管理事務所、公衆便所、荒川児童館、水防倉庫、慰霊塔、SL展示、グラウンド、遊具等



個別施設概要

①荒川公園管理事務所

竣工年	昭和60年	
構造規模	鉄骨造　地上2階建て	
延床面積	221.00㎡	
概要	1F	器具置場
	2F	和室、ホール、控室



②公衆便所

構造規模	軽量鉄骨造　平屋建て
延床面積	8.7㎡



③荒川児童館

竣工年	昭和39年
構造規模	鉄筋コンクリート造　平屋建て
延床面積	86.00㎡
施設概要	和室、図書室、会議室、遊戯室、事務室、湯沸場



④水防倉庫

竣工年	昭和53年
構造規模	軽量鉄骨造　平屋建て
延床面積	14.85㎡



出典：熊谷市

2．荒川公園概要

⑤慰霊塔

竣工年	昭和37年
構造規模	鉄筋コンクリート造
延床面積	281.2㎡
概要	西南戦争から太平洋戦争までの戦いで亡くなった、熊谷市出身の軍人軍属1,900名余りの冥福を祈念して建てられた。熊谷市が昭和36年1月に「熊谷市慰霊塔建設協力委員会」を設置し、市遺族会及び市民の寄附金、市費で、桜堤に近く、秩父連峰を望むことができる荒川公園内を選んで建設した。 出典：総務省HP



⑥SL展示

概要	昭和13年に、貨物用の蒸気機関車として製造された機関車（D51-140号機）である。高崎線、宇都宮線、八高線などを走っていた。生涯地元で活躍し、保存された機関車は全国的にも珍しい。また、この140号機は山手貨物線（現在の湘南新宿ライン）が電化（蒸気機関車から電気機関車へ世代交代）された際に、蒸気機関車での最後の貨物列車の牽引を任された機関車である。



⑦グラウンド

竣工年	昭和42年
概要	クレーグラウンド、バックネット、スコアボード、外灯



⑧器具庫

構造規模	軽量鉄骨造　平屋建て
延床面積	16.2㎡

⑨その他遊具


ブランコ


シーソー


ジャングルジム

3．市民体育館概要



出典：くまがやねっとHP



出典：熊谷市HP

全体概要

敷地面積	6,357.00㎡		
竣工年	昭和40年（築61年）		
構造規模	鉄筋コンクリート造＋鉄骨造　地上2階建て		
延床面積	3,693.05㎡（倉庫含む）		
駐車場	70台		
施設概要	1F	アリーナ	・ 1,526㎡　40m×33m バスケットコート2面、バレーボールコート3面、バドミントンコート8面、卓球台30台、体操用具1式
		舞台	
		柔道場	・ 52畳（約90㎡）…柔道、合気道、テコンドー、体操、ヨガ
		剣道場	・ 130㎡（13m×10m）…剣道、太極拳、気功、空手、居合、ヨガ
		会議室、役員室	・ 24席（体育館が見える位置、3人掛けテーブル8台、ホワイトボード）
		事務室、管理室、放送室	
		更衣室、トイレ	
	2F	観客席	・ 固定席958席、車いす25席
開館時間	8:30～21:30		
管理運営	公益財団法人熊谷市スポーツ協会（指定管理者制度を採用）		

4．市民意向調査～アンケート調査～

市民意向の聴取にあたり、下記の通りアンケートを実施しました。

1）調査概要

アンケート調査（令和７年７月）

▸令和７年７月に３種類のアンケートを実施しました。

概要	市民アンケート	近隣住民アンケート	体育館利用団体アンケート
目的	• 市民の幅広い意見の把握 • スポーツ実施状況の把握	• 周辺にお住まいの立場の意見の把握	• 市民体育館利用団体の意見の把握 • 市内スポーツ施設利用状況の把握
対象	熊谷市民	半径約１ｋｍ圏内の世帯	市民体育館利用団体
方法	市報・HP等に掲載	調査票配布	調査票配布
回答数	721件	214件	9件

※市民・近隣住民アンケート結果は本編に記載のため割愛

追加アンケート調査（令和８年２～３月）

▸若い世代の意見収集が必要という声を受け、追加で意見収集の機会を３回設けました。

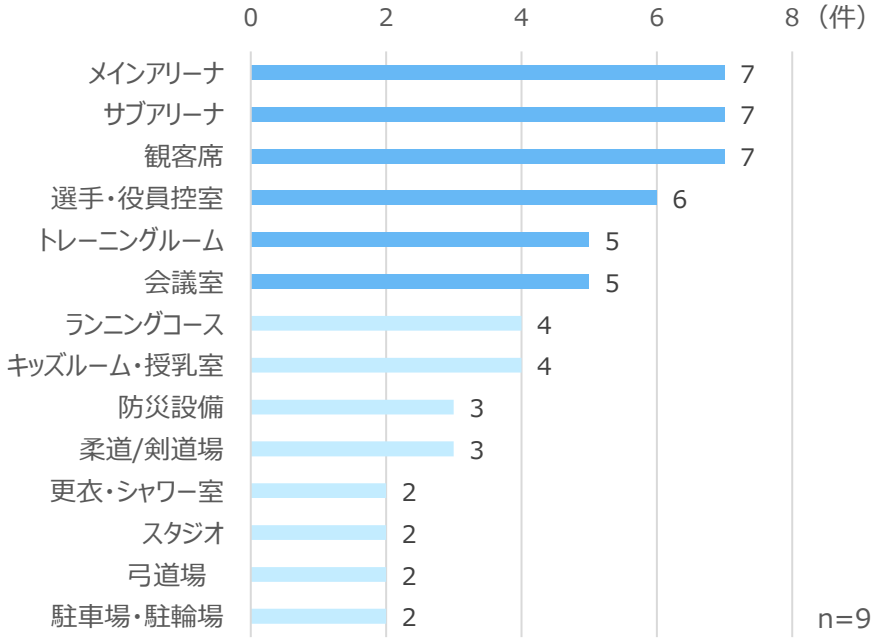
概要	オープンワークショップ①	オープンワークショップ②	中学生アンケート
場所	熊谷スポーツ文化公園 ※ラグビーリーグワン埼玉ワイルドナイツ戦	熊谷駅商業施設（ニットーモール）	市内５つの中学校 ※熊谷さくらマラソン大会中学生ボランティア説明会
形式	パネルアンケート	パネルアンケート	用紙アンケート
回答数	シールの枚数は947 ※1人につきシール枚数1～3枚貼ったため正確な人数は不明	26件	57件

2）体育館利用団体ニーズ

▸体育館利用団体アンケート調査の結果、体育館の利用ニーズについて、以下のような意見が挙げられました。

新しい体育館で利用してみたいと思う機能や施設

※複数回答可



- **メインアリーナ、サブアリーナ、観客席が最多**
- 選手・役員控室、トレーニングルーム、会議室と続く

新しい体育館の規模に対する要望

	規模の要望	利用想定
アリーナ	バスケットボールコート3面	ミニバスケット、中学生大会、高校生大会、一般成人大会、車椅子バスケ　等々
	バスケ3面メインアリーナ＋１面サブアリーナ	各競技の大会、各競技団体の通常の練習、市民のスポーツ、リクリエーションの振興、災害時の避難場所等※
	バレーボールコート4面	熊谷市バレーボール連盟の行事（試合）
		中学、高校の関東、全国大会など開催できる規模
	バレーボールコート6面	県大会
	バドミントンコート12面以上	全国大会、S/Jリーグ開催、バドミントン講習会、協会主催の大会
	空手のコートが5面または7面	空手道の大会、現在の体育館では5面がいいが規模によっては7面
	卓球台50台規模、3500人収容	市スポーツ協会及び中高校生の卓球大会、Tリーグ試合観戦等
他	15M×30M規模の剣道場と柔道場、五人が射ることのできる弓道場、トレーニングコース等を含む観客席	同上（※）
	メインコートを囲む様に、トレーニング室、卓球室、武道場、スタジオ等あれば良い	メイン会場は、中学の市大会、その他は、多様なスポーツ(ダンス、ヨガ、ピラティス、実践的健康教室等)

- アリーナ規模は、**バスケットコート3面以上**を要望する声が多い

4．市民意向調査～アンケート調査～

3）若者・子どもニーズ

- 9つの利用シーンのうち、将来の荒川公園・体育館においてどのように過ごしたいかについて、アンケート調査を実施しました。
- オープンワークショップでの10代以下の若者の回答および中学生アンケートの回答結果について、以下の傾向が見られました。

オープンワークショップ①、②の結果

■：最も多い ■：2番目に多い

共通	①誰もが気軽に体を動かす	②居心地の良い空間でくつろぐ	③みんなで災害に備える
体育館	④スポーツ教室に日常的に参加する	⑤スポーツ大会に出場する・サポートする	⑥スポーツ・イベントをみて楽しむ
公園	⑦豊かなみどりに囲まれ自然を感じる	⑧子どもがのびのびと遊ぶ	⑨季節感を楽しむ

- オープンワークショップ①②の市内外の回答者の合計値において、「**⑧子どもがのびのびと遊ぶ**」が最も多く、次に、「**①誰もが気軽に体を動かす**」が多い
- オープンワークショップ①では、すべての人が気軽に集い、楽しめる場所への期待感が寄せられた
- オープンワークショップ②では、20万人都市にふさわしい立派な公園と、駅近の利点を活かした拠点づくりへの期待が寄せられた

中学生アンケートの結果

■：最も多い ■：2番目に多い

共通	①誰もが気軽に体を動かす	②居心地の良い空間でくつろぐ	③みんなで災害に備える
体育館	④スポーツ教室に日常的に参加する	⑤スポーツ大会に出場する・サポートする	⑥スポーツ・イベントをみて楽しむ
公園	⑦豊かなみどりに囲まれ自然を感じる	⑧子どもがのびのびと遊ぶ	⑨季節感を楽しむ

【5校の回答総計】

- 「**居心地の良い空間でくつろぐ**」が最も多く、オープンワークショップ①②と違いが見られる
- 荒川公園での過ごし方における「**子どもがのびのびと遊ぶ**」が次に多い

4．市民意向調査～ワークショップ～

荒川公園における市民意向の把握のため、近隣住民や体育館の利用団体、自治会や市内の活動団体の方を対象としたワークショップを実施しました。

1）開催概要

11/8 第1回 再整備のあり方の共有

1）現地確認

2）検討状況説明

・WS開催の目的
・検討プロセス
・施設の現況
・調査結果報告

3）グループワーク

現地を見て、良いところ・気になるところ・こうなったらいいなと思うことを出し合う

1/31 第２回 空間イメージの共有

1）検討状況説明

・第１回振り返り
・コンセプト案
・モデル比較検討案の提示

2）グループワーク

モデル比較検討案について感想・意見を出し合う

3/28 第３回 空間イメージの共有

1）検討状況説明

・前回までの振り返り
・前回の質問回答
・事例紹介・追加意見収集報告

2）グループワーク

①第２回の意見をもとにまとめた価値に関する意見交換

②価値を踏まえてモデル比較検討案について意見交換

7/4 第４回 基本計画素案の共有

1）検討状況説明

・モデルプラン、イメージ図など基本計画素案の説明

2）グループワーク

①１）を踏まえて確認したいこと、感想を出し合う

②新体育館・新荒川公園の「こうやって使いたい」を出し合い、空間イメージを共有

③今後の進め方や、再整備後のこのエリアへの関わり方について意見交換

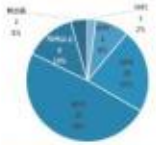
2）第１回ワークショップまとめ

▸第1回ワークショップでは、ワークショップ参加者とともに現地確認をした後、今の公園・市民体育館や、対象エリア全体について意見交換を行いました。

ワークショップ後のアンケート結果について

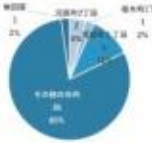
ワークショップ後に参加者 48 名のうち、45 名からご回答いただいたアンケート結果の概要をお知らせいたします。いただいたご意見を踏まえ今後の運営に生かしていきます。

①参加者の年代



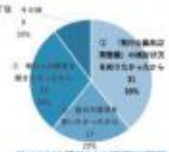
60代が約５割と最も多く、50代～70代以上が全体の８割を占めた。

②居住地域



「その他の市内」が80%で最も多く、「河原町１丁目」が11%と2番目に多かった。

③参加した理由



約4割が「荒川公園周辺再整備」の検討状況を知りたかったから」と回答した。

④ワークショップの内容の評価



「とてもよかった」が 38%、「よかった」が 46%で、約9割が「よかった」と回答した。

⑤ワークショップの中で伝えきれなかったことがあればお書きください。

- 将来を担う後世の為にも、先の事を考えて計画してほしい
- 若い人の意見を聞いて新体育館の計画をしてほしい
- 周辺の自然、文化、静かさ、風景の大切さ、環境に調和した整備を願う
- 事業計画をはっきりと知りたい
- 体育館は川が近すぎるため防災拠点には不向きだと思う

など

⑥ワークショップの運営についてご意見があれば、お書きください。

- ワークショップの運営・進行が良かった
- 今回の意見が市に反映され、実現されることを願う
- グループワークでの議論やまとめの時間が足りなかった
- もっと多角的なデータを提示してほしい
- SNS を活用しワークショップの告知をして、より地域住民や子育て世代の参加を促したい

など

ワークショップ４回の流れ

ワークショップは、2026 年７月までにあと３回継続して実施します。各回、前半に検討状況説明を行い、後半にグループワークでご意見を伺う時間を設けます。各回でいただいたご意見をもとに、「基本計画素案」に生かします。

2025/11 月	2026/1 月	2026/3 月	2026/7 月
第1回 再整備のあり方の共有	第2回 空間イメージの共有	第3回 空間イメージの共有	第4回 基本計画素案の共有
現地確認後、検討状況説明を行い、グループワークでエリアについて意見交換	コンセプト案、モデル比較検討案を提示し、意見交換	第２回を踏まえた修正案を提示し、空間イメージについて意見交換	基本計画素案を説明し、今後の進め方などを含めた意見交換

※ワークショップの内容は今後変更の可能性があります。

topic アンケート調査結果を公開しました！



2025 年７月１日～７月 31 日まで熊谷市民と市民体育館利用団体を対象とした「市民体育館および荒川公園の再整備に関するアンケート」を実施しました。2023年に実施した体育館利用者アンケートも含め、これまで実施したアンケート結果はこのページの下部にある二次元コードからご覧いただけます。
アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

この事業に関する情報

熊谷市ホームページはこちらの二次元コードから閲覧できます

お問合せ

熊谷市 総合政策部 スポーツタウン推進課
TEL 048-524-1760
MAIL sportstown@cityJkumagaya.lg.jp

みんなでつくろう！ 新市民体育館・新荒川公園

NEWS LETTER 2

スクスク！クマガヤ

荒川公園周辺再整備ニュースレター 2026年1月発行 vol.

第１回みんなでつくろう！新市民体育館・新荒川公園ワークショップを開催しました



2025 年 11 月８日（土）に「第１回みんなでつくろう！新市民体育館・新荒川公園ワークショップ」を開催いたしました。48名にご参加いただき、現地確認の後、現施設の良いところ、気になるところ、こうなったらいいなと思うところについて意見交換をいたしましたので、概要をご報告いたします。

開催概要

開催日時　2025 年 11 月８日（土）13:00～17:15 頃
参加人数　48 名
開催場所　荒川公園・市民体育館及びハートピア会議室

プログラム

1 現地確認（荒川公園、市民体育館の現況確認）
2 ワークショップ開催の目的及び現況説明（開催趣旨説明／ WS 開催の目的、検討プロセスについて／施設の概況、調査結果の説明）
3 グループワーク（現地をみて、良いところ・気になるところ・こうなるといいなと思うところを出し合おう）
4 発表・まとめ

現地確認

荒川公園に集合し、公園の樹木調査を担当された樹木医さんも同行のもと、現地確認を行いました。実際に調査する際に使用される木槌を持ってきていただき、木の中が空洞になっている音ってどんな音？ということをみんなで確認したり、健全な樹木と不健全な樹木の見分け方について、実際の公園の樹木を見ながら、お話いただきました。
市民体育館は、大会利用中だったため、２階の観客席からアリーナの状況を目視しました。





2）第１回ワークショップまとめ

検討状況説明・グループワーク

現地確認終了後、会場のハートピア会議室に移動して現在の検討状況の説明を行いました。対象地の現況や、樹木診断結果、７月に実施したアンケート調査結果の概要のほか、市民体育館の位置付けや、現在、調査結果をとりまとめている、対象地周辺の交通量と体育館から発生する騒音調査に関する概要の説明がありました。

グループワークでは、現地確認を踏まえて、エリアの「良いところ」「気になるところ」「こうなるといいなと思うところ」の３点について、グループに分かれて意見交換しました。





いただいた主なご意見

ワークショップでいただいた、多様な視点やアイデアを生かして、基本計画案を検討していきます。
こちらではワークショップでいただいたご意見の一部をご紹介いたします。

エリア全体

良いところとしては、駅からのアクセス性の良さ、落ち着いた住環境、公共施設の集積、様々な目的で人が来るエリア、川沿いまで続く自然の豊かさが挙げられました。

気になるところとしては、道路の混雑や限られた空間による歩きにくさ、駅から川に抜けるまでのエリアを一体と見た時の賑わい不足が挙げられました。

こうなると良いというご意見としては、施設間の相互連携や、新施設を目玉とした一体的な賑わい創出、歩きやすい歩道整備などへのアイデアが寄せられました。

good! 良いところ

- 駅から近く平坦、直線の道でアクセスできる
- 静かで落ち着いた文化的な住環境
- 公共施設が集積しており、様々な目的で人が来るエリア
- 公園と土手のみどりがまとまっているところが良い



Hmm... 気になるところ

- 駅から公園までの一体的な賑わいや施設間の連携が作られていない
- 道路が狭く混雑したり、今以上の広がりがとりづらい
- 車移動が多い割に駐車場が少ない
- 公園、体育館ともに防災機能が必要ではないか



Hope こうなるといいなと思うところ

- 駅から公園までを一体的に整備して熊谷の目玉となるような楽しいエリアになると良い
- イベント時にもゆったりと歩ける道ができ、周辺道路の混雑も解消されると良い
- 相互連携が可能な施設を計画してほしい



荒川公園

良いところとしては、四季折々の表情を楽しめること、大木により木陰や風の道があることによる涼しさ、イベントでの憩いの場としての価値や自由にボール遊びなどが行えることなどが挙げられました。

気になるところとしては、全体的な設備、器具の老朽化や樹木の衰退、ベンチなどの偏りや舗装によるくつろぎづらさ、空間を生かしきれていない現状についてご意見が寄せられました。

こうなると良いというご意見としては、現状の公園の良さを生かした豊かなみどりだけでなく、暑さ対策も兼ねて水に触れられるようにしたいというご意見や、芝生などでくつろげるようにといったアイデアなどが寄せられました。

good! 良いところ

- 美しい樹木や自然を感じられる
- 風の道があり、見事な大木のおかげで涼しい
- 花火、桜、夕日など四季折々の景色が良く癒される
- こどもから高齢者まで楽しめる



Hmm... 気になるところ

- 遊具や施設が古くあまり使われていない
- 木々の元気がないところ
- 管理が大変そうな木が多い
- 慰霊塔は大切だが配置場所や暗い雰囲気など危険を感じる



Hope こうなるといいなと思うところ

- 今の良いところを生かし、丁寧な管理で豊富なみどりを維持してほしい
- 雨宿りや木陰で涼めるような場所があると良い
- 芝生などで寝転んだりくつろげるようになると良い
- 暑さ対策も兼ねて水に触れられる設備があると良い



市民体育館

良いところとしては、駅から近くどのような人にとってもアクセスしやすい立地、こどもの健全な育成につながる場となっていることなどが挙げられました。

気になるところとしては、空調がないことを始め、施設全般の老朽化による使いづらさ、駐車場の規模やわかりにくさ、観客席の少なさ、騒音、利用料金の高さや川沿いにあることへの心配などが挙げられました。

こうなると良いというご意見としては、空調完備で快適にスポーツができること、多目的に活用でき、次世代が楽しく使える施設になると良いというご意見のほか、規模については現状維持から規模拡大、重層化など多様なご意見が寄せられました。

good! 良いところ

- 駅から近く学生や市外の人など、どのような人にとってもアクセスが良い
- こどもの健全な育成につながる場になっている
- 地域の人が使える体育館であるところ
- 市内の体育館の中では観客席が多い



Hmm... 気になるところ

- 器具、設備、施設全般が古くて使いづらい
- 駐車場が狭く車で来た際に不便
- 収益性や稼働率が低い
- 利用料金が高い



Hope こうなるといいなと思うところ

- 空調完備で安全にスポーツができるようになると良い
- ホールやカフェなど子連れでゆっくり待てる場所など多目的に使えると良い
- 若者の意見を反映した計画になり、こどもが利用しやすく笑顔がいっぱいある場になってほしい
- スポーツだけでなく日常的に安く利用できるようにして利用率を上げられると良い

3）第２・３回ワークショップまとめ

- 第2回ワークショップでは、第1回ワークショップ意見を踏まえたモデルプラン案等の説明、意見交換を実施しました。
- 第３回ワークショップでは、これまでの意見交換結果から導いた「3つの価値」を柱に、荒川公園、市民体育館一体のエリアがどんな場を想像できるか、大切にしたいポイントについて意見交換を行いました。





3）第２・３回ワークショップまとめ

検討状況説明

1. 調査結果のご報告

新施設整備に向けて騒音調査、交通量調査の結果を報告しました。

2. 将来の利用シーンと再整備の目標（案）

アンケートやワークショップの意見から導かれた、想定される９つの利用シーンを提示しました。また、再整備の目標（案）として、以下４つを紹介しました。

- 熊谷駅南口エリアの新たな「顔」となり、多様な活動や交流を育む
- 市民とともに豊かな緑を継承し、日常の暮らしを豊かにする
- "する・みる・ささえる" で関われる、市民のスポーツ振興の拠点となる
- 誰もが安心して利用でき、災害時に地域の安全を支える



3. 施設配置の４つのモデルプラン案

寄せられたご意見を踏まえ、体育館・駐車場・公園オープンスペースの配置について、４つのモデルプラン案を提示しました。

- A 案（体育館観客席充実案）
- B 案（既存体育館利用継続案）
- C 案（公園スペース充実案）
- D 案（コストを抑えた案）

4. 民間事業者からの意見（プレサウンディング調査）

体育館や都市公園の運営経験を持つ民間事業者にサウンディング調査を行いました。観客席数、駐車場、荒川緑地との連携、環境・防災対策などについて事業者の見解をまとめました。詳細は熊谷市のホームページをご覧ください。

5. 協議会で明らかにする再整備の論点の整理

再整備を進める上で解くべき課題について共有しました。

6. 周辺まちづくりの状況

かわまちづくり、熊谷駅南口エリアでの検討状況を共有しました。

7. 事例紹介及び追加意見収集についての報告

「体育館 × 公園」の新しいあり方について、おおむたアリーナやおにクルなどの事例を紹介しました。また、2～3月に実施した、３回の追加の意見収集の報告を行いました。

グループワーク

第２回では、各グループで４案の「良い点」と「気になる点」を議論した後、今後の計画の方向性について大切にしたい視点をまとめました。
第３回では、これまでの意見交換結果から導いた「３つの価値」を柱に、荒川公園・市民体育館一体のエリアがどんな場を創造できるか、意見交換しました。議論を踏まえて、生み出したいシーン、大切にしたいポイントを出し合いました。こちらでは内容の抜粋版をご報告します。

これまでの各回の意見交換の内容

- 第１回：現地を見て、良いところ・気になるところ・こうなるといいなと思うところを出し合う
- 第２回：モデル比較検討案の「良いね」「気になる」をシール投票・貼った理由聞き取り
- 第２回：今後の計画の方向性で大切にしたい視点は？
- 第３回：どんな価値を創造する場にしたい？

ワークショップを通して整理した「３つの価値」

横断的な価値

●シビックプライド
- 自分たちのまちに誇りを持てる

●市民主体
- 市民が主体となる

①将来を担う、熊谷市のこどものための場にしよう

●人口減少
- 将来（40～50 年後）のニーズを考えて、何が必要か考える
- 人口減少も想定される中で熊谷市の財政にあったものを考えたい
- 人口減少した将来を見据え、次世代に負の遺産とならない施設

●こどもの体験
- こどもが一流のスポーツに触れられる場になると良い
- 本物のスポーツ選手と触れ合えることで世界を目指せる環境を応援する
- こどもたちが使えるスケボーパークやボルダリングなどのニュースポーツができると良い
- 新しいスポーツができるような広場や体育館になってほしい
- プレーパークのように遊べる
- 若年層が様々なスポーツを体験できる

●市民のための場
- 誰もが平等に自由に利用できる
- 市民にとって使い勝手の良い施設であること
- 何のため、誰のために体育館をつくるのか明確にする必要がある
- 前回のパブコメや近隣住民など、市民の意見を大切に受け止めながら計画を検討してほしい
- 新しい価値を提供する空間に
- 利用料を抑えて誰もが負担なくたくさん使える

●多世代
- 小さなこどもが一緒でも気軽に利用できる
- こどもから大人まで、心も体も健やかに育ち体力を維持できる
- 球技や自転車の練習ができる今の豊かな景色が残されている
- 日常の何気ない楽しみを見つけられる

●魅力ある場
- 交通手段やランドマークの整備等により市内のこどもたちが集まりやすい
- 民間企業や市内の公共施設などとの連携で多様なスポーツを誘致し地域の魅力向上につながる

●アート・歴史文化
- アートや地域の歴史文化にも触れられる
- e-スポーツや書道、美術や音楽などスポーツ以外にも様々な体験ができる

②地域が一体になり、まちの資源や取組との相乗効果を生み出す場にしよう

●一体的なまちづくり
- 駅側から河川敷へ行く動線や施設へのアクセス動線など、まち全体の動線を考えた方が良い
- 駅・公園・体育館エリア・川までの一体的な活用と駅近という立地を生かし熊谷の「顔」となる魅力ある環境に
- 一体整備によって街の目玉になるような体育館になると良い
- まちのなかの動線をしっかり検討し、混雑にならないアクセスを考えたり、まちのなかにある店舗や拠点と連携し、まち全体が盛り上がるような計画にしてほしい
- 他の周辺施設と駐車場を集約して公園・体育館の空間を充実させる
- 隣接する小学校や文化センターも含めた価値づくり

●市内関連計画との連携
- かわまち、南口の活性化、緑地計画などの市内の他の計画とも連携して、広い視野で考える
- 市内の他施設や計画、周辺エリアなど全体で考えたい
- 市が持っている DX の情報なども活用した計画を検討できると良さそう

●賑わい・にぎわい
- 地域のお店や新たな商業誘致により、まち全体ににぎわいをつくる
- 市外からも人が集まり、施設運営費を稼いだり地域の商業が潤う

●みどり
- 自然と施設のバランスが取れている
- みどりをキーワードに有名デザイナーを起用したりみどりのある場づくり
- 大木を生かした景観や涼しさ
- みどりや風の流れを生かしてまちを涼しくする
- みどりあふれる環境
- 涼しい今の環境を大切に

●多様な過ごし方
- 多様な世代がコミュニケーションをとったり、多様な楽しみ方が日常的にできる
- 河川敷での BBQ などみんなが参加できるイベントがあり１日過ごせる
- ペットを連れて利用できる

●有効活用
- 今ある施設や機能を最大限に有効活用

③自然災害、暑暑、防犯などの地域課題の解決につながる場にしよう

●避難所としての活用
- 平常時は防災体験、災害時は避難所として活用
- 駅近の利便性を生かして誰もがアクセスしやすく利用でき、避難所にもなる
- 避難所としてはどのように活用するのか
- 避難施設としての位置付けを明確にしてほしい
- 防災の観点から、体育館は２階建てが良い

●浸水・暴雨対策
- 浸水対策も重要
- 浸水時に防災機能が高い拠点に
- 浸透性のある地面で豪雨対策されている
- 水害や地震などのリスクがあってもこのエリアで安心して暮らせる

●環境配慮
- 排熱を考えて、風の通り道をつくってほしい
- 施設配置や緑化により酷暑を和らげ、天候に左右されずに快適に使える
- ミスト、シェード、みどりを組み合わせ南口から川まで自然の魅力あふれる
- 暑い日でも屋内外でのびのびと遊べる
- 環境負荷を抑え、ランニングコストも優れた施設運営がされている

●健康
- 心の健康を保てる
- 医療費の削減や人口流入にもつながるような使いやすい施設で健康寿命を伸ばせる

4．市民意向調査～ワークショップ～

4）第４回ワークショップまとめ

▸第４回ワークショップでは、これまでの3回のワークショップにおける意見交換の内容を踏まえ、作成した基本計画素案について意見交換を行いました。



荒川公園周辺再整備基本計画策定協議会　第１回会議　開催報告

2026年6月16日（火）に「第１回熊谷市荒川公園周辺再整備基本計画策定協議会」を開催しました。検討状況の報告では、基本計画素案についてご説明しました。

第１回 協議会 開催概要

開催日時　2026年6月16日（火）14:30～16:30
協議会委員　17名／仰聴人12名
開催場所　ハートピア 会議室

プログラム
1 開会
2 挨拶
3 委員紹介
4 会長について
5 議事
（1）副会長の都名
（2）検討状況の報告及び基本計画素案
（3）今後の進め方
6 その他
7 閉会

委員から寄せられたご意見（抜粋）

【地域住民の期待】
地元住民として魅力向上に期待している、地域の人にとっても親しみやすい公園にしたい

【拠点化と駐車場の確保】
バスケ3面による多様な利用が考えられる、拠点化のため、駐車場も一定数は確保が必要

屋上空間の有効活用】
体育館の上に緑の遊び場を作ることは良い案である。体育館利用者、住民にとっても良い計画を策定してほしい

【公園との景観的一体化】
アリーナが大きく公園を占めている印象だ。公園と区別せず、一体となったアリーナを考えるべき

【一般駐車場の抑制】
駐車場の多さは公園の負荷になる。一般用は減らし、送迎や車いす用などに限定して抑制してほしい

【省エネと維持管理費の削減】
規模拡大において空調設備も膨大になる。ランニングコストを考慮して検討すべき

【全庁横断での活性化推進】
公園を活性化させるソフト事業は、担当課単独で行うのではなく、全庁的に取り組むべき

【周辺の公共施設との連携】
周辺の図書館や文化会館と複合的に計画を立てることで、地域の価値となる。掛け算で次の時代の提案にしたい

【多世代がくつろげる居場所】
スポーツ重視だけでなく、子どもがのびのび遊べるキッズスペースやくつろげる居場所を作ってほしい

今後の検討の流れ

9月末に予定している２回目の協議会で基本計画素案を諮ります。その後、11月頃に住民説明会、12月にパブリックコメントの募集期間を設け、2027年３月頃に基本計画を策定予定です。

2026/9月	2026/11月	2026/12月頃	2027/3月
第２回協議会	住民説明会	パブリックコメント募集期間	基本計画策定
基本計画素案の内容をまとめます	基本計画素案の説明を行います	基本計画案へのご意見を広く募集します	これまでの市民協働での取組を踏まえた基本計画を策定します

※現時点の予定です。今後変更の可能性があります。

この事業に関する情報　熊谷市ホームページはこちらの二次元コードから閲覧できます

お問合せ　熊谷市 総合政策部 スポーツタウン推進課
TEL 048-524-1760
MAIL sportstown@city.kumagaya.lg.jp



みんなでつくろう！ 新市民体育館・新荒川公園

NEWS LETTER 4

荒川公園周辺再整備ニュースレター　2026年9月発行　vol.

第4回 ワークショップを開催しました

2026年７月４日（土）に４回目の「みんなでつくろう！新市民体育館・新荒川公園ワークショップ」を開催いたしました。40名の方にご参加いただき、これまでの３回の意見交換の内容を踏まえ、作成した基本計画素案について意見交換をいたしました。こちらでは概要をご報告いたします。

第４回 開催概要

開催日時　2026年７月４日（土）14:00～17:00
参加人数　40名
開催場所　ハートピア会議室

プログラム
1 開会挨拶・本日の進め方
2 第３回の振り返り・検討状況説明
3 グループワーク
・検討状況説明を踏まえた意見交換
4 発表・まとめ

モデルプラン（２案）

※令和8年9月下旬発行予定

4）第 4 回ワークショップまとめ

新市民体育館・新荒川公園について、こんな質問が寄せられました

検討状況の説明後、参加者から体育館の規模や防災、公園・周辺環境、市民意見の反映などについて、さまざまな質問や意見が出されました。主な質疑応答の内容をご紹介します。

Q 暑さ対策や環境への配慮は？

Q 体育館からの排熱や、再生可能エネルギーの活用はどう考えていますか？

A 既存の樹木を可能な限り残すほか、サブアリーナの開放、水遊び場、屋根付き広場などによる暑さ対策を検討します。また、再生可能エネルギーを導入した ZEB 化等についても検討します。

Q 水害への備えは大丈夫？

Q 浸水想定区域で 1 階にアリーナを設けても大丈夫ですか？ 盛土はするのでしょうか？

A 想定浸水深 1.6m を考慮した整備方法を検討しています。水害時には 2 階の固定席を避難場所として活用する考えです。盛土を行うかどうかや、避難所としての具体的な運用については今後検討します。なお、現在示している費用には盛土の費用は含まれていません。

Q なぜメイン３面＋サブ２面なの？

Q 人口が減少する中、大きな体育館が必要なのでしょうか。維持管理費も心配です。

A 大会利用と市民利用が重なった場合でも双方が利用できることや、建替え期間中も現在の利用を継続するため、メイン 3 面・サブ 2 面が必要と判断しています。利用しやすくなることで稼働率や収入の向上も見込んでいます。

Q 公園や周辺の住環境はどうなる？

Q 体育館が大きくなることで、公園の自由な空間が減ったり、交通・照明などが周辺住宅に影響したりしませんか？

A 公園スペースを可能な限り確保するとともに、さくら祭や花火大会などイベント時の利用は周辺エリアとの連携も含めて検討します。夜間照明についても、設計・運用の両面から近隣の住環境に配慮します。既存樹木についても可能な限り残す考えです。

Q 利用しやすさや立地については？

Q 障がいのある方への配慮や、工事期間中の体育館利用、熊谷駅近くに整備する理由を教えてください。

A 障がいのある方を含め、さまざまな利用者の意見を聞きながら検討し、屋上へはエレベーターやスロープなどのバリアフリー動線を確保します。また、現在の市民体育館の年間約 9 万人の利用を代替できる施設はほかにありません。荒川公園周辺については、熊谷駅に近い立地を生かし、市民のスポーツ・文化活動や交流人口の拡大につながる拠点、新たな「熊谷の顔」となる施設を目指して検討します。

Q ワークショップの意見はどう反映される？

Q これまで出した市民の意見が、今回の案にどう反映されたのか分かりにくいです。

A 相反するさまざまな意見を「3 つの価値」として整理し、施設の機能や配置を検討するベースとしています。一方、検討のプロセスが分かりにくかった点については、市も受け止めています。今回のワークショップの意見を次回の協議会に報告するとともに、これまで検討してきた案を含め、経緯を分かりやすく示していきます。

グループワーク

第 4 回では、モデルプランについて、3 つの価値を振り返りながら、意見交換を行いました。
また、ワークショップは最終回となるため、今後の検討で大切にしてほしいことも出し合いました。

各回の意見交換の内容

第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回
現地を見て、良いところ・気になるところ・こうなるといいなと思うところを出し合う	モデル比較検討案の「良いね」「気になる」をシール投票・貼った理由聞き取り	今後の計画の方向性で大切にしたい視点は？	どんな価値を協議する場にしたい？	モデルプランに関する意見交換・今後の検討で大切にしたいこと

意見交換 1）モデルプランについて、3 つの価値を振り返りながら意見交換しよう

モデルプランについて、これまでの WS の意見から導き出した 3 つの価値、①将来を担う、熊谷市の子どものための場にしよう ②地域が一体になり、まちの資源や取組との相乗効果を生み出す場にしよう ③自然災害、暑暑、防犯などの地域課題の解決につながる場にしよう、を再確認した上で、2 案について意見交換しました。
体育館の立地や規模・機能、公園や自然環境、防災、運営など幅広い意見が出されました。体育館の規模や立地などについては、異なる方向の意見も出されました。カテゴリ別にご紹介します。

計画・立地

○周囲の体育館やスポーツ施設を代替施設として活用してはどうか
○利用者増加が見込まれる駅近や新幹線が停まる立地を生かしたい
○現在の敷地ではなく、荒川公園以外の場所への整備も検討したい　など



体育館の規模・機能

○体育館の規模や面数は、稼働率を踏まえた検討が必要
○利用継続のためには、サブアリーナが必要
○サブアリーナに公園、遊び、カフェなどの機能を持たせたい　など



公園・周辺環境

○公園、サブアリーナ、川を一体的につなぎ、滞留できる場所にしたい
○住宅地への圧迫感や反響音に配慮し、設備の配置を工夫する必要がある
○現在の公園、広場、グラウンドを今までどおり使えるようにする必要がある　など



自然・暑さ・景観

○自然、大きな木、並木、生物多様性を、できる限り残してほしい
○排熱を抑え、ミストや常緑樹などによる暑さ対策が必要
○建物の高さや配置に配慮し、桜の景観や並木を守る必要がある　など



運営・利用しやすさ

○ランニングコストや平日利用を踏まえ、経済性を確認してほしい
○自動販売機の料金を安くし、盲導犬のトイレを分かりやすくしてほしい
○建物だけでなく、運営についても検討する必要がある　など



駐車場・防災

○盛土やピロティを採用し、耐震性や防災性を高める必要がある
○駐車場を公園と一体的に整備し、公園利用者と共有したい
○駐車場の台数を確保し、体育館の下への配置も検討してはどうか　など



意見交換 2）今後の検討で大切にしてほしいこと

今後の検討については、市民が納得・理解しながら意見を積み上げる進め方や、市民・利用者の声の反映を求める意見が出されました。また、運営やコスト、周辺環境への影響、公園と体育館やまちづくりとの関係についても意見が出されました。

市民参加・情報公開・説明

○ワークショップの目的から話し合い、もう一度実施してはどうか
○市民が納得や理解をし、意見を積み上げながら進める必要がある
○ワークショップをアリバイづくりや市のために利用しないでほしい　など

検証・運営・将来負担

○排熱、風、空気への影響と対策をデータで示してほしい
○ハードだけでなく、運営やコストを含めたシミュレーションを示してほしい
○次世代に税金の負担を残さないことが必要　など

※熊谷市の HP に、ワークショップ当日の配布資料や、まとめ資料などを掲載していますので、詳細は裏面の二次元コードを読み取ってご確認ください。

5．スポーツマネジメントの位置づけ調査

新体育館の整備の方向性を検討するため、市内の屋内スポーツ施設全体からみた体育館の位置づけについて調査・分析を行いました。

- 市民体育館の立地している荒川公園周辺は、「熊谷市都市計画マスタープラン（令和４年３月）」において、“新スポーツ・文化・健康拠点”として位置づけられており、以下の役割が求められています。

> **①都市拠点に近接する強みを生かし、市民のスポーツ・文化活動の支援や交流人口の拡大を図る拠点**
>
> ②「**する・みる・ささえるスポーツ**」を通じ、地域の誇りを感じる空間

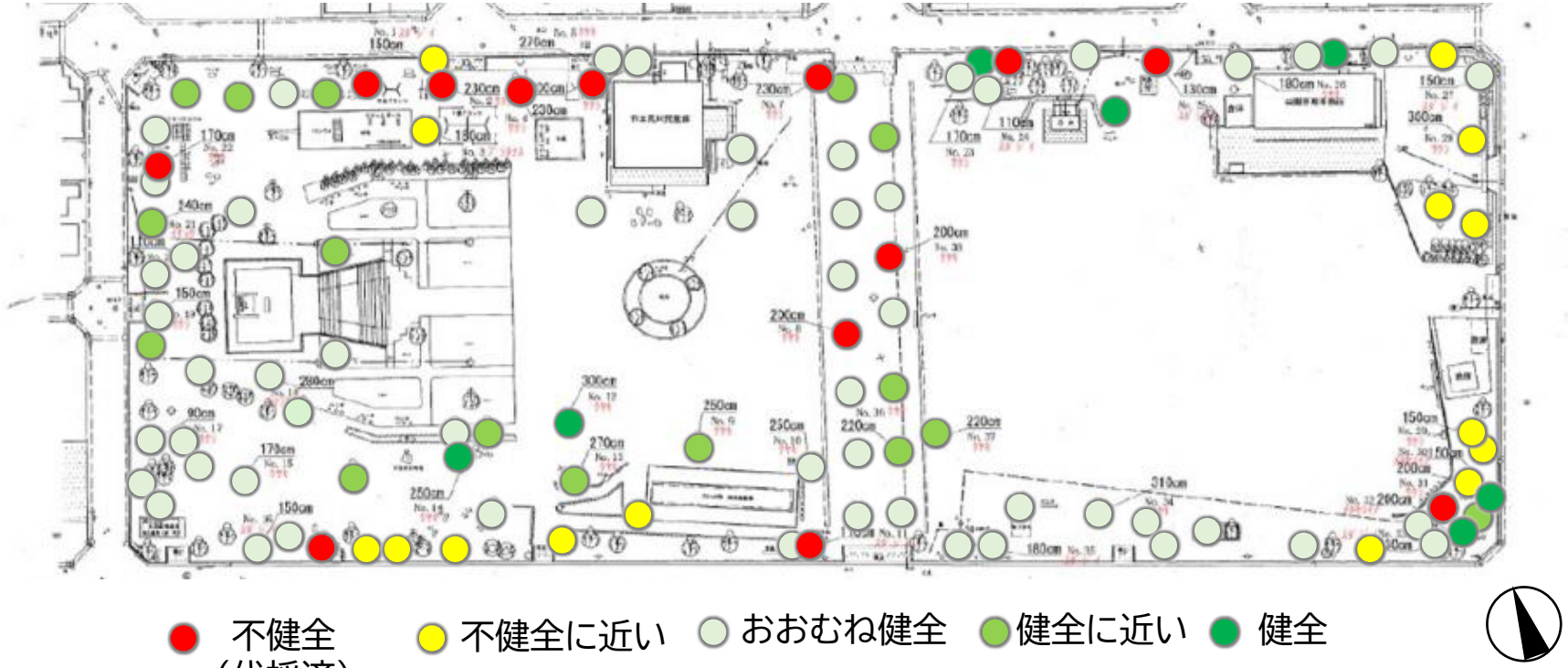
- 市民体育館の再整備にあたっては、**“みるスポーツ”の機能を強化しつつ、市民の“するスポーツ”利用との両立を図る**ことで、**“する・みる・ささえる”**で関われる、**市民のスポーツ振興の拠点**となる施設を目指していくことが望ましいと考えられます。
- 市民体育館の現状の利用状況について、利用者数は多い一方で稼働率はそこまで高くないため、これまで活動できなかった競技の使用を含め、**ハード・ソフト両面での再整備**を行い、より**効率的・効果的な利用ができる施設**としていくことが重要です。

▼

全ての世代の市民が利用しやすく、併せて全国規模の大会等が開催できる体育館を検討

6．樹木調査

荒川公園内の樹木の健康状態を測るために、２０２５年 1月、7月に幹周90cm以上の大径木105本について樹木医による樹木調査を実施しました。



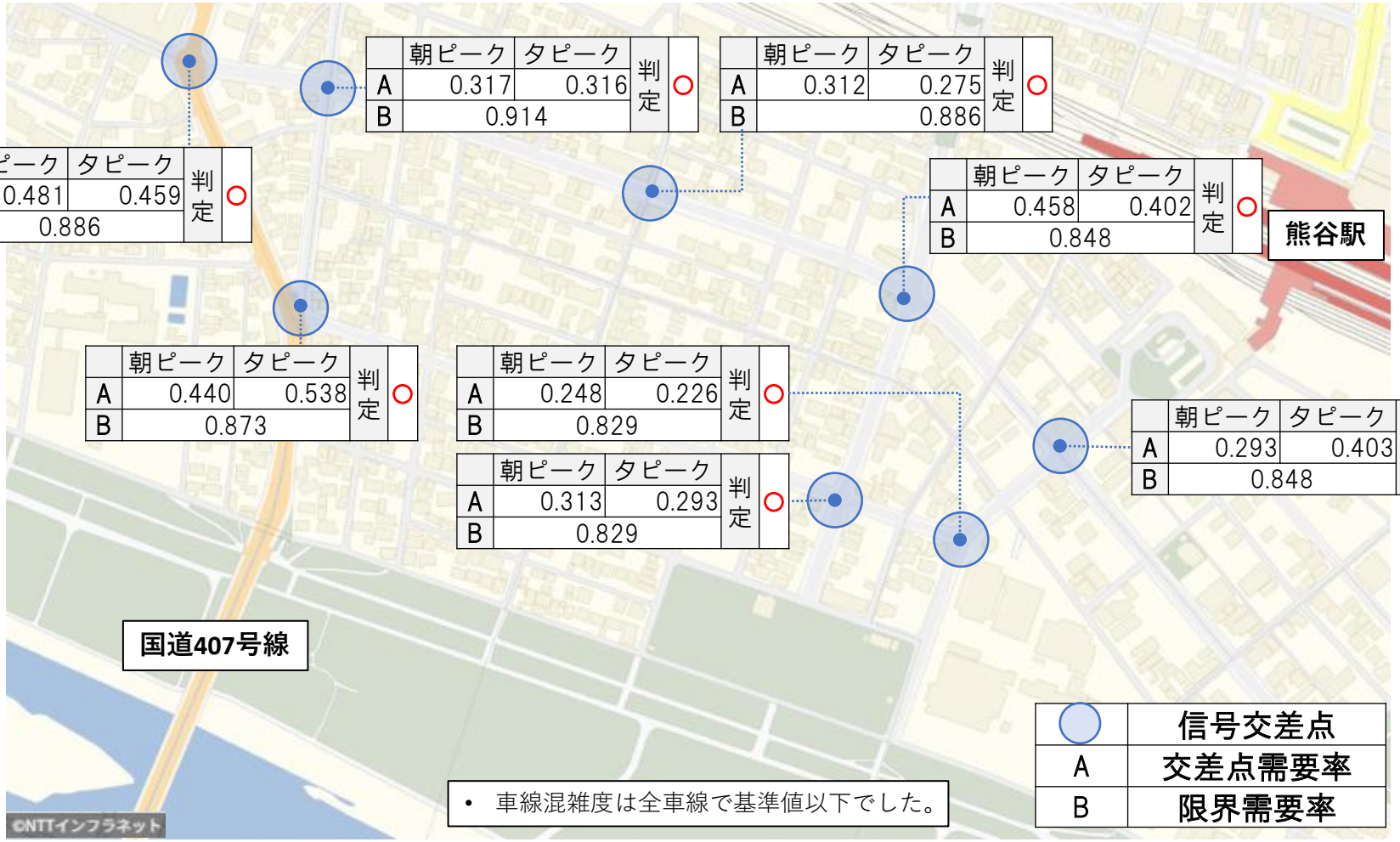
結果

- **約３割の樹木が「不健全」「不健全に近い」**

※不健全：不健全な状態にあり、今後回復の見込みがないもの、倒木や幹折れの危険のあるもの。
※不健全に近い：被害の程度が大きく、何らかの処置を必要とするもの。

7．交通量調査

周辺の交通環境への影響を検討するため、過年度に実施した交通量調査に加え、本年度も追加調査を実施しました。



- 車線混雑度は全車線で基準値以下でした。

結果

- **新施設の整備により周辺交差点で新たに渋滞は発生しない**
- **一部交差点で滞留が発生する可能性があるため入出庫動線の誘導を検討する必要がある**

8．騒音調査

新たな体育館における騒音環境の目標を設定するため、現況の市民体育館における騒音の状況と、新施設に類似する施設における騒音の状況を調査しました。

①現況調査

- 実施日時　　：10/25(土)
- 対象イベント：プロレスリング（SUPER Jr. TAG LEAGUE 2025）
- 対象施設　　：熊谷市立市民体育館

②〈参考〉類似施設調査

- 実施日時　　：6/28(土)
- 対象イベント：プロバスケ（B.LEAGUE GLOBAL INVITATIONAL 2025 B.LEAGUE UNITED vs AUS NBL(NBL 選抜)）
- 対象施設　　：オープンハウスアリーナ太田

①市民体育館　（来場者数：1,093人）

	等価騒音レベル（dB）	
	屋内	屋外
イベント前	46	46
イベント時	80	54

②〈参考〉類似施設（来場者数：3,094人）

	等価騒音レベル（dB）	
	屋内※	屋外
イベント前	51	47
イベント時	54	49

結果

- **イベント時は、屋内・屋外の両地点で騒音レベルが上昇した。**
- **しかし、現施設でも施設外壁の防音効果により、イベント時の屋外の騒音レベル（54dB）は、環境基準値（55dB※）を下回る数値であった。**

※本基準値はイベント時を対象とした基準値ではなく 一般的な環境（平常時）に適用される値

▶ 目標：新施設は現況と同程度の騒音環境となるような施設計画を検討

20

9．事業者ヒアリング調査

体育館や都市公園に関わった経験を持つ民間事業者から意見を聴取した結果は以下の通りです。

①体育館のモデルプランへの主な意見

	メリット	デメリット
A案 体育館観客席充実案	• メイン・サブアリーナで興行と市民利用を両立しやすい。 • 公園側の施設を使って公園と連携しやすい。	• 一体型より整備・維持運営ともにコスト増。 • 分棟のため利用者・搬入出ともに不便。道路の乱横断も懸念。 • メイン・サブアリーナ一体利用はしにくい。 • 公園の面積が減少する。
B案 既存体育館利用継続案	• 既存体育館の利用を継続しながら整備できる。 • 駐車・交通動線は整理しやすい。 • メイン・サブアリーナで興行と市民利用を両立しやすい。 • 公園側の施設を使って公園と連携しやすい。	• 一体型より整備・維持運営ともにコスト増。 • 分棟のため利用者・搬入出ともに不便。道路の乱横断も懸念。 • メイン・サブアリーナ一体利用はしにくい。 • 公園の面積が減少する。 • 敷地北側への影響（騒音・振動、圧迫感等）を懸念。
C案 公園スペース充実案	• 運営しやすく、維持運営コストも下がる。 • 利用者動線が分かりやすい。ただし縦動線は要工夫。 • 公園への影響が最も少ない。 • 浸水時も安全に避難できる。	• メインアリーナ２階・下部に駐車場だとコストは増える。 • 工期は長くなる可能性。 • 興行利用と市民利用は両立しづらい。 • 搬入出・可動席運営が煩雑でイベント利用が減る恐れ。 • 建物が高くなり、日照面や圧迫感は懸念。 • 避難時の縦動線は要工夫。また、メインアリーナが２階なため物資拠点にはならない可能性。
D案 コストを抑えた案	• 分棟型より整備コストは下がる。最もコスト低い可能性。 • 運営しやすく、維持運営コストも下がる。 • 利用者動線が最も分かりやすい。 • 公園利用者が駐車場を利用しやすくなる効果はある。	• 工事中は利用継続できない。公園側に工事ヤードが必要。 • 延床面積が小さく、後から諸室不足となるリスクはある。 • 公園側に駐車場が必要となり公園への影響、道路乱横断や搬入出が課題。

②必要と考える観客席数の規模

- 観客席数3,000～4,000席について、概ね妥当との意見が多くありました。

意見
• **アマチュアレベルの全国大会**であれば、**3,000～4,000席あれば足りる**（5,000席程度が望ましいとの意見も一部あり） • **プロ・興行利用を視野に入れる場合には4,000席以上**が望ましい。 • 固定席を増やすと清掃等の維持運営負荷が上がり、満足度低下リスクもあるため**可動席を組み合わせることが合理的**。

③必要と考える駐車場台数の規模

- 現状や将来の利用率等を踏まえた検証が必要としつつ、市が想定する台数では不足するとの意見が多くありました。
- 一方、立地を生かし、公共交通機関の利用を前提とすることも考えられるとの意見がありました。

意見
• 平常時の一般利用においても、**最低でも100台程度**は必要。 • 大規模大会・イベント時は**周辺の駐車場と連携する必要**がある。ただ、既に駅利用者である程度埋まっているのでは。 • 大規模大会・イベント時を考慮すると、大型バスや大型トラック等が進入できる駐車場が必要。 • 駅から近い好立地のため、**公共交通機関の利用を前提とすること**は考えられる。

④公園としての施設等のアイディア

主なアイディア
• 休憩・カフェ・日陰など滞在性向上の場を整備する。 • 大型遊具や屋内遊び場など、子ども・家族向けの遊び場を強化する。 • 屋外コートやランニング路などのスポーツ・健康機能を充実させる。 • イベント広場やキッチンカー対応設備で公園の賑わいを作る。

⑤荒川緑地との連携に関するアイディア

主なアイディア
• ランニング・サイクリング利用者向けの更衣・シャワー等をアリーナに設ける。 • スポーツ体験・環境イベント・フードイベントを緑地と共同で開催する。 • トイレ・休憩所などアリーナの設備を緑地利用者にも開放する。 • 緑地を一次避難、アリーナを避難所とする防災連携を強化する。

⑥環境負荷を下げ、防災・減災のための施設とするための方策

主なアイディア
• ZEB Ready は概ね可能だが、Nearly ZEB は大空間ゆえに難しくコスト増が大きい。 • 太陽光・蓄電池、高効率空調、断熱強化などの省エネ設備導入が必要。 • 浸水リスクに備え、設備室や避難機能を上階に置き、防災設備（非常電源・備蓄）を充実すべき。 • 要求水準や防災・ZEBの仕様はコストに大きく影響するため、事前に明確化が必要。

10. 過年度モデルプラン

過年度計画していたモデルプランは以下の通りです。

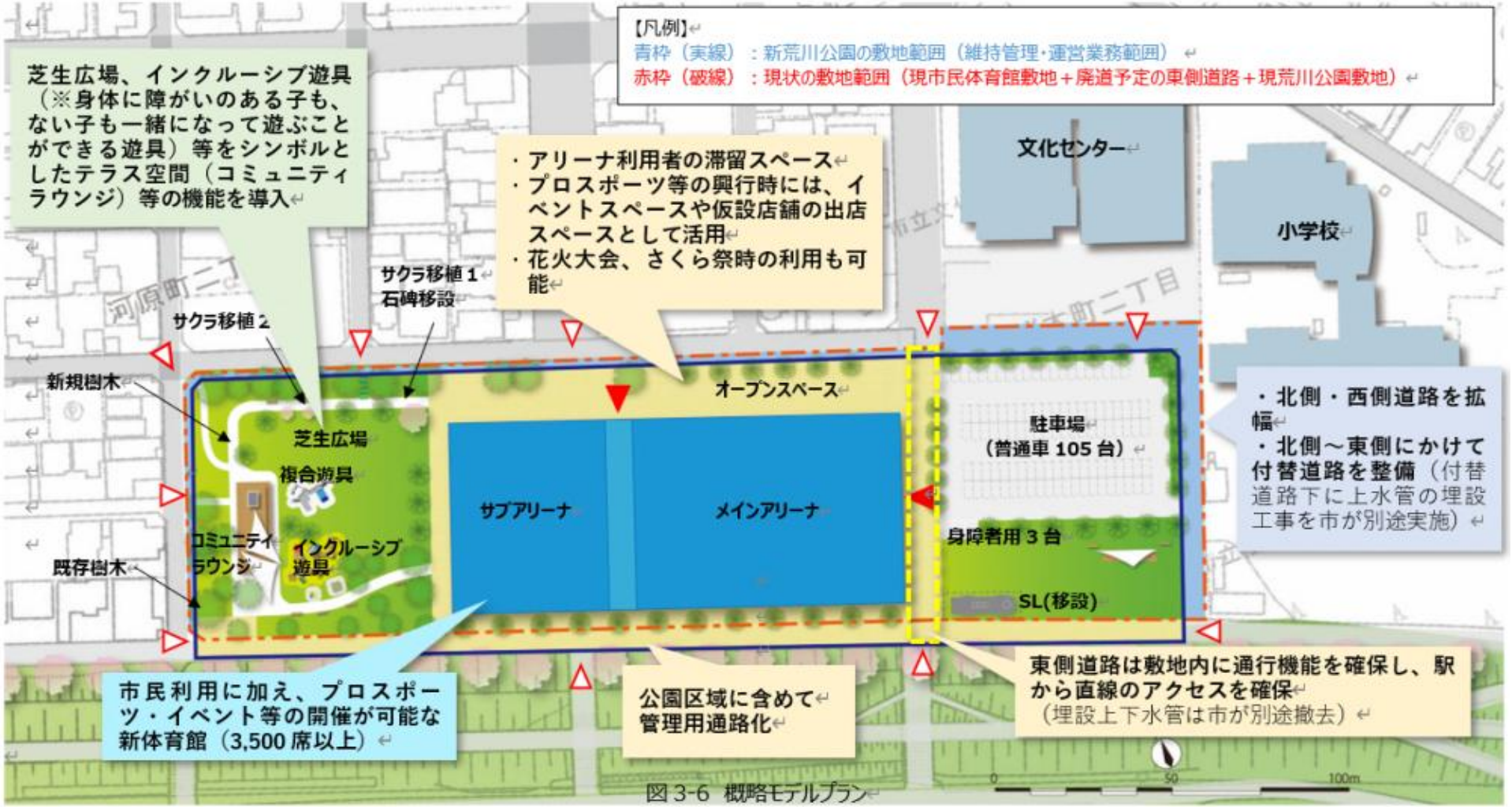


図 3-6 概略モデルプラン

荒川公園周辺再整備基本計画策定協議会　委員名簿

No.	所属団体	氏　名
1	千葉大学　グランドフェロー 社会構想大学院大学　社会構想研究科　教授	池邊このみ
2	日本女子体育大学大学院 スポーツ科学研究所スポーツ科学専攻　教授	上林　　功
3	荒川自治会連合会	原　　邦夫
4	曙・万平自治会連合会	橋本　昌克
5	筑波自治会連合会	中村　　稔
6	熊谷商工会議所	福田　　馨
7	熊谷青年会議所	長澤　元樹
8	株式会社まちづくり熊谷	松岡　八起
9	熊谷市観光協会	江森　勝行
10	熊谷市スポーツ協会	赤沼　　昇
11	熊谷市レクリエーション協会	磯山加代子
12	熊谷市中学校体育連盟	山田　健司
13	熊谷市高等学校体育連盟	上田　毅一
14	熊谷市社会福祉協議会	原山　俊市
15	NPO法人子育てネットくまがや	大﨑　幸恵
16	熊谷市子ども会育成連絡協議会	林　　昌己
17	埼玉県防災士会	富田　義三

※委員は各団体からの推薦

熊谷市荒川公園周辺再整備基本計画策定協議会設置要綱

（令和７年１２月１８日市長決裁）

（名称）

第１条　この会は、荒川公園周辺再整備基本計画策定協議会（以下「協議会」という。）と称する。

（設置目的）

第２条　熊谷市立市民体育館及び隣接する荒川公園周辺を再整備するに当たり、幅広い見地から意見を求め、実効性のある計画を策定することを目的とする。

（構成及び組織）

第３条　協議会は、会長、副会長及び委員をもって２０人以内で組織する。

２　会長は、学識経験者をもって充てる。

３　副会長は、委員のうちから会長が指名する。

４　委員は次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

⑴　学識経験者

⑵　地区を代表する者

⑶　関係団体を代表する者

⑷　その他、市長が必要と認める者

５　関係する市職員等をオブザーバーとすることができる。

（会長等の職務）

第４条　会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

２　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

（任期等）

第５条　委員の任期は、委嘱又は任命の日から令和９年３月３１日までとする。

２　会長は、委員等に特別の事情が生じたときは、その職を解き、必要に応じて委員等を補充することができる。

３　委員が欠けた場合における補充委員の任期は前任者の残任期間とする。

（会議）

第６条　協議会の会議は、必要に応じて会長が招集する。

２　協議会の議長は、会長がこれにあたる。

３　会長は、必要があると認めるときは、協議会に委員以外の関係者の出席を求めてその意見及び説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

（庶務）

第７条　協議会の庶務は、総合政策部スポーツタウン推進課において処理する。

（委任）

第８条　この会則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附　則

（施行期日）

この要綱は、令和７年１２月１８日から施行する。